≪2022 年 9 月（通算 311 回）公開サロン報告≫

＊＊

2022 世界のサッカー
ーオリンピックとワールドカップの間でー

井上俊也（大妻女子大学）

＊＊

【日　時】2022 年 9 月 30 日（金）19：30～21：30（終了後はオンライン懇親会　23：30 まで）
【会　場】オンライン（Zoom）
【テーマ】2022 世界のサッカーーオリンピックとワールドカップの間で
【演　者】井上俊也（大妻女子大学）
【参加者（サロン 2002 ファミリー）17 名】★は NPO 会員
磯和明、宇留間範昭（東急）、井上俊也（大妻女子大学）、★春日大樹（NPO サロン 2002 理事）、北川信行（産経新聞）、小池靖、木村康子（ライター・編集者）、★熊谷建志（NPO サロン 2002 理事）、鈴木崇正（会社員）、田中俊也（三日市整形外科＠富士市）、張寿山（スフィーダ世田谷）、徳田仁（株セリエ）、★中塚義実（筑波大附属高／NPO サロン 2002 理事長）、福地修也（筑波大附属高）、本郷由希（会社員／NPO サロン 2002 理事）、守屋佐栄（スフィーダ世田谷サポーター）、吉原尊男
【参加者（サロン 2002 ファミリー以外）3 名】
今澤絵梨菜（甲文堂）、岡田浩一、齋藤登（東京 FA ユースダイレクター）
【報告書作成】守屋俊秀ほか

＜目次＞
ごあいさつ（中塚義実）
はじめに（井上俊也）
Ⅰ．2020 東京オリンピックで見られた男子サッカーの変化
　＜ディスカッション①＞
Ⅱ．2018 年に始まった UEFA ネーションズリーグ
Ⅲ．FIFA ワールドカップの変化
　＜ディスカッション②＞
　１．気になる中国の動向
　２．レベル別リーグとブロック内での対抗戦
　３．パリ・サンジェルマンのジャパンツアーからみえるもの
　４．ナショナリズム、コマーシャリズムとクローバル化ーワールドカップのこれから
　５．おわりに

＜キーワード＞
　オリンピック、ワールドカップ、代表チーム、選手構成、ネーションズリーグ、EURO、パリ・サンジェルマン、グローバル化、ナショナリズム、コマーシャリズム

ごあいさつ（中塚義実）

今日は通算 311 回目の月例サロンです。

主催の NPO サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げる NPO です。主な事業は月例サロン。公開型のものと、サロンファミリーだけが参加できる限定サロンがあります。公開型のシンポジウムを 11 月に長野県千曲市で、1 月には神戸市で予定しています。toto 助成をもらって U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップを主催しています。こういう団体です。

今年度は、月例サロンのメインテーマに「ユースリーグ」と「スポーツとアート」を掲げています。「遊び心を育む環境づくり」ということですね。ただしこれにこだわらず、タイムリーなトピックも随時取り上げます。今年は何といっても FIFA ワールドカップですよね。

ということで、井上俊也さんから話題提供していただくことになりました。井上さんは、サロン 2002 の前身の研究会の頃、四半世紀前からお付き合いさせてもらっています。今日は「2022 年世界のサッカーーオリンピックとワールドカップの間で」というテーマでお話しいただきます。

では井上さん、よろしくお願いします。

はじめに（井上俊也）

ご紹介いただきました井上でございます。現在、大妻女子大学に勤務しております。

はじめに自己紹介、問題意識をお話します。そのあと三つの話をします。一つ目が東京オリンピックです。二番目は UEFA ネーションズリーグ。三つ目が FIFA ワールドカップの変化。最後に今後の展望をお話します。ちょっと長くなると思うので、途中で吸水タイムをとりながら、質問をお受けする時間をとりたいと思います。もちろん途中でも構いません。よろしくお願いします。

■自己紹介

1961 年に愛媛県の松山で生まれました。いま 60 歳。中塚先生と同い年です。長年 NTT に勤務しておりまして、12 年前に大妻女子大学に入職し、それからフルタイムの大学教授をしています。フランスに 5 年ほど留学勤務。皆様の電話料金で留学させていただきました。この時に、フランスという国のビジネスエリートが、基幹産業だけでなく、スポーツだったり芸術だったり、あらゆる分野のマネジメントの中心に、まあ、サッカーでいう背番号 10 ですね、どんなチームにも背番号 10 がいるということに感銘しました。その後はスポーツマネジメントのゼミで、平成の 30 年間と令和を過ごしています。

サロン 2002 との関わりについて簡単にお話しをします。中塚先生からご紹介いただきましたが、中塚先生と知り合ったのは 1995 年です。サロン 2002 ができる前から知り合いになり、研究発表を継続的に行ってきました。サロン 2002 となったのが 1997 年です。第 5 回月例会で発表しております。その後、第 18 回、第 182 回、第 193 回、第 248 回。前回報告したのが 4 年前ですね。「ワールドカップのグループリーグからフェアネスを考える」という題目でした。4 年間ご無沙汰し、昨年も指定発言者という形で少しだけ登壇しましたが、今回はサロン 2002 での発表 7 回目ということで、全体発表の 2%は貢献していることになります。

■問題意識

今回の問題意識ですが、最初はオリンピックにあります。今回私がお話しするのは、数々の不祥事ではなく、二つの日本戦のことです。男子サッカーの日本戦。

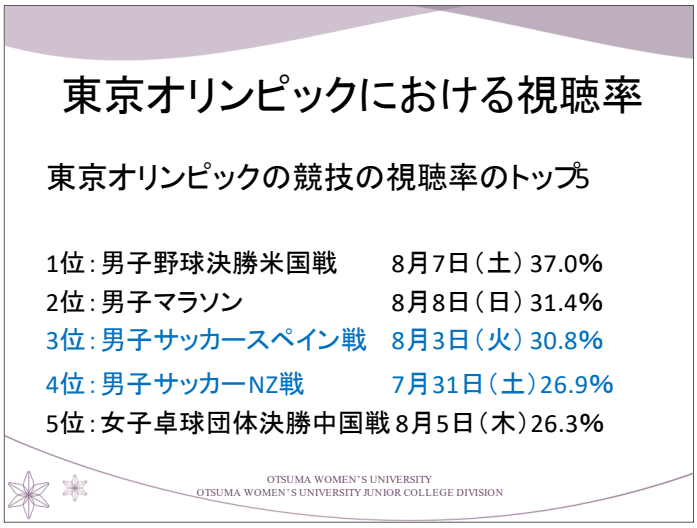
一つ目が、8 月 3 日に埼玉スタジアムで行われた準決勝、0-1 で負けたスペイン戦。そしてグループリーグの最終戦、横浜であったフランス戦です。4-0 で勝ちました。二つの日本戦は対照的な結果になっています。スペイン戦は 0-1 ですけど完敗。フランス戦は 10 点とってもおかしくない試合でした。

すごく疑問に思いました。実はオリンピックには、終わってから興味を持ち始めました。

オリンピックの男子サッカーには二つの意味があると思っています。一つ目はオーバーエイジというルールがあるにせよ、23 歳以下の年齢制限を設けてプロ選手が出場する、もっともワールドカップに近い年代別の大会であるということ。もう一つは、今回無観客ではありましたが、ロサンゼルスオリンピック以来、もう 40 年近く、オリンピックで最も観客を動員する競技であるということです。

皆さんにお尋ねしますが、東京オリンピックの視聴率のトップファイブは何でしょう？　競技のトップファイブで 1 位と 2 位は？　世界中が感動した開会式と閉会式が 1 位と 2 位です。では個々の競技ではどんなのが出てくるでしょう。

1 位は、やっぱり野球の決勝、アメリカ戦。2 位が男子マラソン。そして 3 位が、先ほど申し上げた男子サッカー準決勝のスペイン戦。4 位がサッカーの準々決勝ニュージーランド戦。5 位が卓球女子団体の中国戦なんです。1・2・5 位は全部決勝です。まあマラソンには予選も決勝もありませんが。それと、サッカーのスペイン戦は平日なんです。もちろんこれは日本の数字ですが、こう考えるとサッカーってすごく人気があるコンテンツなんですね。ということで、サッカーはオリンピックでは、日本ですごく意味のある競技です。



ところがこの大会、ベストメンバーとは言えないチームを送ってきた国がいくつもあったのです。今回は無観客なので、人が入る入らないは関係ありませんが、次のオリンピック以降、こんな感じでメンバーを送ってきたら誰も見に来ないのではないかということを心配しています。

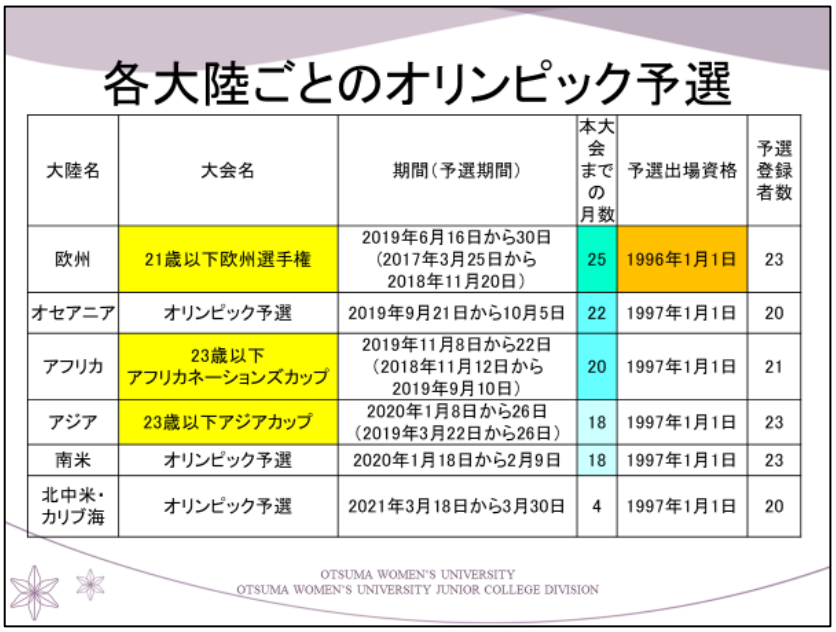
どんなことがあったのか。男子サッカーの変化を、東京オリンピックで見てみたいと思います。

Ⅰ．2020 東京オリンピックで見られた男子サッカーの変化

私が分析したのは、オリンピックの予選と本大会で、各国でどれだけの選手が出場し、構成が変わったのかということです。

このように各大陸予選があり、黄色い部分は、ほかの大会でオリンピック予選を兼ねました。オリンピック予選をやったのは、オセアニアと南米と北中米・カリブ海だけです。あとはアジアカップとか年齢別の欧州選手権で代行しました。

今回、コロナで一年延期になったこともありますが、ヨーロッパに関しては予選が終わってから本大会まで 25 か月、つまり本大会の 2 年以上前に決まってしまったわけですね。アジアにしても 18 か月で一年半。アフリカは 20 か月。相当前に決まっているんです。もちろん本



各大陸ごとのオリンピック予選

大陸名	大会名	期間（予選期間）	本大会までの月数	予選出場資格	予選登録者数
欧州	21歳以下欧州選手権	2019年6月16日から30日（2017年3月25日から2018年11月20日）	25	1996年1月1日	23
オセアニア	オリンピック予選	2019年9月21日から10月5日	22	1997年1月1日	20
アフリカ	23歳以下アフリカネーションズカップ	2019年11月8日から22日（2018年11月12日から2019年9月10日）	20	1997年1月1日	21
アジア	23歳以下アジアカップ	2020年1月8日から26日（2019年3月22日から26日）	18	1997年1月1日	23
南米	オリンピック予選	2020年1月18日から2月9日	18	1997年1月1日	23
北中米・カリブ海	オリンピック予選	2021年3月18日から3月30日	4	1997年1月1日	20

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

当のワールドカップは 8 ヵ月前に決まります。

もう一つ。今回はコロナで一年延期となり、23 歳以下でなく 24 歳以下になりました。予選出場資格はみんな 1997 年 1 月 1 日以降生まれの選手でしたけど、ヨーロッパだけ 96 年 1 月 1 日なんです。こんな感じで予選が行われたということです。

どういうチームが出てきたどういう結果だったのかを表にしました。青系がいい成績を収めたところです。優勝ブラジル、2 位がスペイン、3 位メキシコ、4 位日本。決勝トーナメントに残った後のチームは緑。選んでいくとコートジボワール、韓国。グループ 3 位になって敗退したのが黄色の 3 チーム。グループリーグ最下位だったのは赤のチームです。こういう感じでした。日本は予選免除だったのですが、予選に相当するアジアカップに出場し、グループリーグで負けています。

各大陸ごとの出場国と成績

大陸名	予選順位	出場国	本大会成績
欧州	1	スペイン	2位
	2	ドイツ	グループ3位
	3	フランス	グループ3位
	3	ルーマニア	グループ3位
オセアニア	1	ニュージーランド	ベスト8
アフリカ	1	エジプト	ベスト8
	2	コートジボワール	ベスト8
	3	南アフリカ	グループ4位
アジア	0	日本	4位
	1	韓国	ベスト8
	2	サウジアラビア	グループ4位
	3	豪州	グループ4位
南米	1	アルゼンチン	グループ3位
	2	ブラジル	1位
北中米・カリブ海	1	メキシコ	3位
	2	ホンジュラス	グループ4位

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

この表を見ると、ヨーロッパって成績悪いなと思うわけです。そこで、予選登録者の本大会登録状況をみてみました。欧州選手権、アフリカネーションズカップ、アジアカップ予選と本大会、つまり予選にさらに予選があるんですね。それで本大会を 8 チームか 16 チームでやるような形です。

最終予選登録者の本大会登録状況

大陸名	予選順位	出場国	本大会成績	予選登録数	本大会登録数	本大会登録率
欧州	1	スペイン	2位	23	8	35%
	2	ドイツ	グループ3位	23	5	22%
	3	フランス	グループ3位	23	3	13%
	3	ルーマニア	グループ3位	23	6	26%
オセアニア	1	ニュージーランド	ベスト8	20	6	30%
アフリカ	1	エジプト	ベスト8	21	15	71%
	2	コートジボワール	ベスト8	21	13	62%
	3	南アフリカ	グループ4位	21	7	33%
アジア	0	日本	4位	23	8	35%
	1	韓国	ベスト8	23	16	70%
	2	サウジアラビア	グループ4位	23	14	61%
	3	豪州	グループ4位	23	8	35%
南米	1	アルゼンチン	グループ3位	23	11	48%
	2	ブラジル	1位	23	8	35%
北中米・カリブ海	1	メキシコ	3位	20	12	60%
	2	ホンジュラス	グループ4位	20	14	70%

赤字は監督が交代

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

最終予選の登録者のうち本大会に何人出たかを調べてみました。青系は予選の登録者数分の本大会登録者が多いところで、韓国が 16 人。登録 23 人中 16 人です。赤系は少ないところで、例えばヨーロッパ勢は少ないですね。一年伸びたこともあると思いますけど非常に少ない。日本も少ない。韓国だけでなくサウジもすごく多いです。赤字で書いたニュージーランドとホンジュラスは、監督が予選と本大会で変わった国です。監督が変われば選手も変わるだろうと仮設を立てましたが、見事にそれが両極端に出ていました。

最終予選の登録選手　スペイン

No.	位置	氏名	本大会	生年	予選時所属	本大会時所	フル代表
1	GK	Antonio SIVERA		1996			
2	DF	Jesus VALLEJO	登録	1997		国内移籍	
3	DF	Aaron MARTIN		1997	国外	国内移籍	
4	DF	Jorge MERE		1997	国外	国外	
5	DF	Unai NUNEZ		1997			201909
6	MF	FABIAN		1996	国外	国外	201906
7	MF	Carlos SOLER	登録	1997			202109
8	MF	Mikel MERINO	OA登録	1996			202009
9	FW	Borja MAYORAL		1997		国外	
10	MF	Dani CEBALLOS	OA登録	1996		国外	201809
11	MF	Mikel OYARZABAL	登録	1997			201605
12	MF	Manu VALLEJO		1997			
13	GK	Unai SIMON	登録	1997			202008
14	MF	Igor ZUBELDIA		1997			
15	DF	Martin AGUIRREGABIRIA		1996			
16	DF	Pol LIROLA		1997	国外	国外	
17	MF	Alfonso PEDRAZA		1996		国内移籍	
18	FW	Rafa MIR	登録	1997			201911
19	FW	Dani OLMO	登録	1998	国外	国外	201911
20	DF	Junior FIRPO		1996		国外	
21	MF	Marc ROCA		1996		国外	
22	MF	Pablo FORNALS		1996		国外	201605
23	GK	Dani MARTIN		1998		国内移籍	

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

一つひとつチームを見て行きます。まずはヨーロッパ予選で優勝したスペインです。ピンクはどういう人かというと、本大会に行きましたということです。予選の時は年齢制限に引っかからなかったけど、

本大会で年齢制限に引っかかってしまった選手もいます。生まれ年が 1996 年の選手は、ヨーロッパの予選には出られるけど本大会には出られません。

在籍クラブが国内か国外かも、予選の時とオリンピック本大会の時で比較してみました。また、フル代表に最初に入った年と月も調べました。ウナイ・ヌネス選手は 2019 年 9 月に初代表入りしています。色をつけていないのはオリンピックが終わってから代表に入った選手で、網掛けをしています。

これがドイツです。ドイツはスペインとは少し異なり、96 年生まれが多かったのですが本大会に出てる人がすごく少ない。それとフル代表に選ばれる選手はみな、見事に抜けています。

悲惨なのはフランスです。予選に出た選手のうち本大会に出たのは 3 人しかいません。あの国特有の問題として、予選の時はフランスだったけど本大会ではセネガル代表とかカメルーン代表になったという、フランス特有の事情もあります。もちろんこの 2 人はオリンピックには出ていません。オリンピックにセネガルとカメルーンは出ていないですね。ということで、非常に少なくなったということです。

ところが、この名前見てると知ってる選手が結構いるんですよ。いま活躍してるじゃないか、代表で、みたいなね。今度ワールドカップに出てくる選手も何人かいるんです。あとでお話します。

渋いところでルーマニアが出場しました。98 年、97 年生まれの早熟な選手がおそらく優秀だったんでしょうね。ルーマニアは最近あまり聞かなかったのですが、予選の段階でフル代表に入っている選手が

最終予選の登録選手　ドイツ

No.	位置		本大会	生年	予選時所属	本大会時所	フル代表
1	GK	Alexander NUBEL		1996		国外	
2	DF	Benjamin HENRICHS	登録	1997	国外	国内移籍	201611
3	DF	Lukas KLOSTERMANN		1996			201903
4	DF	Jonathan TAH		1996			201603
5	DF	Timo BAUMGARTI		1996		国外	
6	MF	Maxmilian EGGETEIN		1996		国内移籍	
7	MF	Levin OZTUNALI		1996		国内移籍	
8	MF	Mahmoud DAHOUD		1996			202010
9	FW	Lukas NMECHA		1998	国外	国外	
10	FW	Luca WALDSCHMIDT		1996		国外	201910
11	FW	Marco RICHTER	登録	1997		国内移籍	
12	GK	Florian MULLER	登録	1997		国内移籍	
13	FW	Johannes EGGETEIN		1998		国外	
14	DF	Maxmilian MITTELSTADT		1997			
15	DF	Waldemar ANTON		1996		国内移籍	
16	MF	Suat SERDAR		1997		国内移籍	201910
17	DF	Felix UDUOKHAI	登録	1997		国内移籍	
18	MF	Nadiem AMIRI		1996		国内移籍	201909
19	MF	Florian NEUHAUS		1997			202010
20	DF	Robin KOCH		1996		国外	201910
21	MF	Arne MAIER	登録	1997		国内移籍	
22	MF	Eduard LOWEN		1997		国内移籍	
23	GK	Markus SCHUBERT		1998		国内移籍	

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

最終予選の登録選手　フランス

No.	位置		本大会	生年	予選時所属	本大会時所	フル代表
1	GK	Gautier LARSONNEUR		1997			
2	DF	Kelvin AMIAN		1998		国外	
3	DF	Fode BALLO-TOURE		1997		国外	202103SEN
4	DF	Ibrahima KONATE		1997	国外	国外	
5	DF	Dayot UPAMECANO		1998	国外	国外	202009
6	MF	Lucas TOUSART	登録	1997		国外	
7	MF	Romain DEL CASTILLO		1996		国内移籍	
8	MF	Houssem AOUAR		1998			202010
9	FW	Moussa DEMBELE		1996		国外	
10	MF	Matteo GUENDOUZI		1999	国外	国内移籍	202111
11	FW	Jean-Philippe MATETA		1997	国外	国外	
12	FW	Jonathan IKONE		1998			201907
13	DF	Colin DAGBA		1998			
14	FW	Jonathan BAMBA		1996			
15	DF	Malang SARR		1999		国外	
16	GK	Maxence PREVOT		1997			
17	DF	Moussa NIAKHATE		1996	国外	国外	
18	MF	Ibrahima SISSOKO		1997			
19	DF	Anthony CACI	登録	1997			
20	FW	Marcus THURAM		1997		国外	202011
21	MF	Olivier NTCHAM		1996	国外	国外	201911CAM
22	MF	Jeff REIN-ADELAIDE		1998			
23	GK	Paul BERNARDONI	登録	1997		国内移籍	

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

最終予選の登録選手　ルーマニア

No.	位置	氏名	本大会	生年	予選時所属	本大会時所	フル代表
1	GK	Andrei RADU		1997	国外	国外	
2	DF	Radu BOBOC	登録	1999			
3	DF	Florin STEFAN		1996			201909
4	DF	Alex PASCANU	登録	1998	国外	国内移籍	201811
5	DF	Ionut NEDELCEARU		1996	国外	国外	201803
6	DF	Cristian MANEA		1997			201405
7	MF	Florinel COMAN		1998			201910
8	MF	Dennis MAN		1998		国外	201803
9	FW	George PUSCAS		1996	国外	国外	201805
10	MF	Ianis HAGI		1998		国外	201811
11	FW	Adrian PETRE		1998	国外	国内移籍	
12	GK	Catalin CABUZ		1996			
13	DF	Ricardo GRIGORE	登録	1999			
14	MF	Vlad DRAGOMIR		1999	国外	国外	
15	DF	Virgil GHITA	登録	1998			202109
16	MF	Dragos NEDELCU		1997			201611
17	MF	Alexandru CICALDAU		1997		国外	201805
18	DF	Adrian RUS		1996		国外	201909
19	FW	Andrei IVAN		1997	国外	国内移籍	201511
20	MF	Andrei CIOBANU	登録	1998			
21	MF	Tudor BALUTA	登録	1999		国外	201805
22	MF	Darius OLARU		1998			202106
23	GK	Andrei VLAD		1999			202106

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

たくさんいたチームです。ただ、こちらも本大会には 6 人ぐらいしかオリンピックに来ていません。

欧州各国の最終予選登録選手の動向を見てみると、スペインは本大会出場が 8 人。うち 2 名はオーバーエイジ、国外組 3 人、フル代表は 6 人です。まともなチームを日本に連れて来たと言えるでしょう。ドイツは 5 人で、オーバーエイジ 0、国外組 0、フル代表は 1 人だけ。要は国内組のフル代表未経験者ばかりを集めてきたチームです。フランスは予選突破時のメンバーのうち 3 人しかオリンピックに連れてきません。国内組のフル代表未経験者がたくさん来たということです。ルーマニアは人材の宝庫だったにもかかわらずオリンピックには来ませんでした。国内組でフル代表未経験、予選のときはサブだった選手が本大会に出たということです。

何が言いたいかというと、オリンピック本大会までにフル代表に入るような選手は、オリンピックに来ないということです。ルーマニアは 11 人もフル代表がいるのに 2 人しか来ない。国外組も 20 人いたのに 3 人しか来ない。国内クラブの選手しか来ない。

予選で登録された選手であっても、フル代表や国外クラブに所属するような優秀な選手は本大会には登録されません。フル代表入りするような実力のある選手は、クラブが招集を拒否するからです。うちのチームからオリンピックに行かせないでくれというレターを、ヨーロッパの有力クラブは全部送っているのです。それともう一つ。オリンピックのひと月前に EURO、欧州選手権があり、スペインとフランスは出場しています。ただ、これはあまり理由にはなりません。

では、オリンピックにはどんな人が来たのかということをみていきましょう。

スペインにはフル代表経験者がいます。生まれた年は 97 年以下で、オーバーエイジを 3 人使っています。98 年以降生まれの選手は、次の 21 歳以下の欧州選手権に出る資格があります。一回り下の大会に出る選手が 2021 年になりまして、その辺に出ている選手は緑で書きました。

EURO2020 は 2021 年にやりましたが、これに出ている選手、例えばペドリ、ダニ・オルモなど欧州選手権で活躍した選手は、欧州選手権に出てそのまま日本に来ました。このように非常にいいメンバーを揃えてきたのがスペインです。これが結局日本と 1-0 です。

ドイツは、もうたそがれています。オーバーエイジの 3 人も、名前を聞いたことがない選手です。予選の時に出ていた選手も 5 人しかおらず、フル代表に選ばれるような実力のある選手はオーバーエイジの 3 人だけです。あと 1 人、ベンヤミン・ヘンリクスぐらいですね。ということで、ドイツはかなり落としたメンバーでした。

フランスもメンバーを落としました。フル代表入りの選手は一人もいません。

本大会の登録選手　スペイン

No.	位置	氏名	予選登録	OA登録	生年	2021 U21	EURO 2020	所属	フル代表
1	GK	Unai SIMON	登録		1997		登録		202008
2	DF	Oscar MINGUEZA			1999	登録			202106
3	DF	Marc CUCURELLA			1998	登録			202106
4	DF	Pau TORRES			1997		登録		201910
5	DF	Jesus VALLEJO	登録		1997				
6	MF	Martin ZUBIMENDI			1999	登録			202106
7	FW	Marco ASENSIO		OA	1996				201605
8	MF	Mikel MERINO	登録	OA	1996				202009
9	FW	Rafa MIR	登録		1997				201911
10	MF	Dani CEBALLOS	登録	OA	1996			国外	201809
11	FW	Mikel OYARZABAL	登録		1997		登録		201605
12	DF	Eric GARCIA			2001		登録	国外	202009
13	GK	Alvaro FERNANDEZ			1998	登録			202106
14	MF	Carlos SOLAR	登録		1997				202109
15	MF	Jon MONCAYOLA			1998				
16	MF	PEDRI			2002		登録		202103
17	MF	Javi PUADO			1998	登録			202106
18	DF	Oscar GIL			1998	登録			202106
19	FW	Dani OLMO	登録		1998		登録	国外	201911
20	MF	Juan MIRANDA			2000	登録			202106
21	MF	Bryan GIL			2001				202103
22	GK	Ivan VILLAR			1997				

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

本大会の登録選手　ドイツ

No.	位置		予選登録	OA登録	生年	2021 U21	EURO 2020	所属	フル代表
1	GK	Florian MULLER	登録		1997				
2	DF	Benjamin HENRICHS	登録		1997				201611
3	DF	David RAUM			1998	登録			202109
4	DF	Felix UDUOKHAI	登録		1997				
5	DF	Amos PIEPER			1998	登録			
6	MF	Ragnar ACHE			1998				
7	FW	Marco RICHTER	登録		1997				
8	MF	Maximilian ARNOLD		OA	1994				201405
9	FW	Cedric TEUCHERT			1997				
10	FW	Max KRUZE		OA	1988				201305
11	FW	Nadiem AMIRI		OA	1996				201910
12	GK	Svend BRODERSEN			1997			国外	
13	MF	Arne MAIER	登録		1999				
14	MF	Ismail JAKOBS			1999	登録			
15	DF	Jordan TORUNARIGHA			1997				
16	DF	Keven SCHLOTTERBECK			1997				
17	MF	Anton STACH			1998				202203
18	MF	Eduard LOWEN			1997				
22	GK	Luca PLOGMANN			2000				

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

オーバーエイジの 3 人も曰く付きです。アンドレ・ピエール・ジュニアクとフロリアン・トウヴァン選手は、オーバーエイジのフル代表経験者で活躍した選手ですが、彼らの所属クラブはメキシコです。ヨーロッパのクラブはフランスのオリンピックチームのために選手なんか出すか、という形で断ったんです。そんな感じで、生まれて初めて代表と名の付くチームに入ったような選手が集まりました。これが日本に 0-4 で敗れたチームです。EURO にも誰も出ていません。U-21 欧州選手権にも 2 人しか出ていません。

予選で人材豊富と言われたルーマニアですが、全然違う選手が集まってしまいました。まったく世代が変わった感じで、2～3 年若い選手がずらっと並んでいます。予選時の黄金時代の選手はどこに行ってしまったんだという感じです。

メンバー表をみると、ドイツは 19 番と 20 番と 21 番が、フランスも 21 番がおらず、永久欠番なのかと思ってしまいます。選手が 22 人集まらなかったのです。オリンピックに行きたいと、世界の子供たちが思ってるにも関わらず、ドイツとフランスは 22 人の選手を集められなかったということです。選手本人は代表を希望したかもしれませんが、クラブが拒否して、選手が集められなかった。このようなメンバーが東京に、最もオリンピックで人気の競技に集まってきたということです。

このことは、ヨーロッパの代表チームのカレンダーが大きく影響しています。2021 年の春から夏にかけて、青がフル代表のカレンダーです。3 月末はインターナショナルマッチデイで、日本も試合しました。赤い部分がアンダーエイジ、若い選手の大会です。先ほども言いましたが、21 歳以下の欧州選手権、つまり一つ下の世代、98 年 1 月 1 日以降の大会のグループリーグと本大会、決勝トーナメントを、インターナショナルマッチデイに分けて行う。

6 月から 7 月にかけてフル代表の欧州選手権（EURO）があり、7 月 21 日から 8 月 7 日が 97 年以降生れのオリンピック。

主なヨーロッパの大会は 4 つあります。一つ目は U-21 欧州選手権のグループリーグ。グループリーグは 4 チーム×4 グルー

本大会の登録選手　フランス

No.	位置		予選登録	OA登録	生年	2021 U21	EURO 2020	本大会時所	フル代表
1	GK	Paul BERNARDONI	登録		1997				
2	DF	Pierre KALULU			2000	登録		国外	
3	DF	Melvin BIRD			2000				
4	DF	Timothee PEMBELE			2002				
5	DF	Niels NKOUNKOU			2000			国外	
6	MF	Lucas TOUSART	登録		1997			国外	
7	FW	Arnaud NORDIN			1998				
8	MF	Enzo LE FEE			2000				
9	FW	Nathanael MBUKU			2002				
10	FW	Andre-Pierre GIGNAC		OA	1985			国外	200904
11	MF	Teji SAVANIER		OA	1991				
12	MF	Alex BEKA BEKA			2001				
13	DF	Clement MICHELIN			1997				
14	FW	Florian THAUVIN		OA	1993			国外	201706
15	DF	Modibo SAGNAN			1999			国外	
16	GK	Stefan BAJIC			2001				
17	DF	Anthony CACI	登録		1997				
18	FW	Randal KOLO MUANI			1998	登録			
19	DF	Ismael DOUKOURE			2003				
20	FW	Isaac LIHADJI			2002				
22	GK	Dimitry BERTAUD			1998				

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

本大会の登録選手　ルーマニア

No.	位置	氏名	予選登録	OA登録	生年	2021 U21	EURO 2020	所属	フル代表
1	GK	Mihai POPA			2000				
2	DF	Radu BOBOC	登録		1999	登録			
3	DF	Florin STEFAN		OA	1996				201909
4	DF	Alex PASCANU	登録		1998			国外	201811
5	MF	Tudor BALUTA	登録		1999			国外	201805
6	DF	Virgil GHITA	登録		1998				202109
7	MF	Ion GHEORGHE			1999				
8	MF	Marius MARIN			1998	登録		国外	202109
9	FW	George GANEA			1999	登録			
10	MF	Andrei CIOBANU	登録		1998	登録			
11	FW	Valentin GHEORGHE			1997				
12	GK	Mihai AIOANI			1999	登録			
13	MF	Eduard FLORESCU			1997				
14	DF	Andrei RATIU			1998			国外	202109
15	DF	Andrei CHINDRIS			1999				
16	MF	Ronaldo DEACONU			1997				
17	DF	Ricardo GRIGORE	登録		1999				
18	MF	Marco DULCA			1999				
19	FW	Andrei SINTEAN			1999				
20	MF	Alex DOBRE			1998			国外	
21	MF	Antonio SEFER			2000				
22	GK	Darius OLARU			2000				

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

2021年春夏の欧州の代表カレンダー

3月21日から31日　2022ワールドカップ予選
3月24日～31日　U-21欧州選手権グループリーグ
（1998年1月1日以降生まれ　16チーム）
6月2日から8日　親善試合
5月31日～6月6日　U-21欧州選手権決勝トーナメント
（8チームによるノックアウト方式）
6月11日から7月11日　2020欧州選手権
7月21日から8月7日 東京オリンピック
（1997年1月1日以降生まれ　16チーム）

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

プの 16 チームでやりました。各グループの上位 2 チーム、計 8 チームが残り、決勝トーナメント。ノックアウトステージですね。赤い部分は欧州選手権で、24 チームが参加、オリンピックには 4 チームが参加しました。皆勤賞はドイツ、スペイン、フランスです。

大会名	U-21 欧州選手権 グループステージ	U-21 欧州選手権 決勝トーナメント	EURO 2020	東京オリンピック
開催国	ハンガリー &スロベニア	ハンガリー &スロベニア	欧州各国	日本
期間	3月24日～31日	5月31日～6月6日	6月11日～7月11日	7月21日～8月7日
出場国	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ
	ハンガリー		ハンガリー	
	オランダ	オランダ	オランダ	
	ルーマニア			ルーマニア
	チェコ		チェコ	
	イタリア	イタリア	イタリア	
	スロベニア			
	スペイン	スペイン	スペイン	スペイン
	デンマーク	デンマーク	デンマーク	
	フランス	フランス	フランス	フランス
	アイスランド			
	ロシア		ロシア	
	クロアチア	クロアチア	クロアチア	
	イングランド		イングランド	
	ポルトガル	ポルトガル	ポルトガル	
	スイス		スイス	
			ウクライナ	
			ウェールズ	
			スウェーデン	
			ポーランド	
			オーストリア	
			トルコ	
			ベルギー	
			フィンランド	
			スロバキア	
			スコットランド	
			北マケドニア	

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

スペインはなんであれだけ日本をコテンパンにやっつけちゃったのかということですが、有資格者をきちんとオリンピックに登録しました。例えばペドリは、予選のときはまだ全然力がない子供でした。2 年前です。ダニ・オルモやウナイ・シモンはそのころからある程度力があり、欧州選手権 8 人のうち、赤い 6 人をオリンピックに派遣してきました。

ところがドイツとフランスは、欧州選手権に登録した有資格者をオリンピックに登録しませんでした。例えばドイツのカイ・ハバーツ。日本で見たかったですね。フランスだとキリヤン・ムバッペとか、今活躍しているジュール・クンデとか、マーカス・テュラムなどが、欧州選手権には出たけどオリンピックには来なかった。こういう感じになっているわけです。

次の世代の U-21 欧州選手権は、グループリーグもノックアウトステージもフル代表と同じ日程ですから出られるはずなんです。ところが本大会には全然来ない。スペインの強さは、まず 22 人全員揃いました。うち 13 人も、2021 年で 2 回の国際大会－U-21 欧州選手権で 7 人、フル代表の欧州選手権で 3 人が国際大会のキャリアを積んできました。

ところがフランスやルーマニアはメンバーが全然集まりません。所属クラブがオリンピック派遣を拒んだからです。先ほども言いましたが、ドイツ、フランスは定員割れ、22 人集まりません。スペインは国内にビッグクラブが散らばっていて、余裕あるメンバーが組めます。だから、ペドリなんかもそうだと思いますが、ビッグクラブにいて、試合には出たり出なかったり。ターンオーバーみたいなことをきちんとやっています。こういうところだと、オリンピックに行ってもいいよ、ほかのメンバーで回しておくからとなっていたのだと思います。

参考までに、日本をみてみます。これは逆のパターンです。予選でメンバーが集まらなかったですね。

予選というのは、アジアカップです。アジアの大会のグループリーグで日本が負けたのは何年振りかと、結構話題になりましたよね。この時は欧州組が全然招集できませんでした。上田綺世はこの頃まだ大学生かな。フル代表にはみな 2019 年に入っていますが、実は「なんちゃってフル代表」で、東アジア選手権の時にみんな選ばれました。6 月 10 日で

参考までに日本の最終予選登録選手

No.	位置	氏名	本大会	生年	予選時所属	本大会時所	フル代表
1	GK	小島亨介		1997			
2	DF	立田悠悟		1998			201906
3	DF	渡辺剛		1997			201912
4	MF	菅大輝		1998			201912
5	DF	杉岡大暉		1998			201906
6	MF	斉藤未月		1999			
7	MF	田中駿汰		1997			201912
8	MF	田中碧	登録	1998		国外	201912
9	FW	小川 航基		1997			201912
10	MF	食野亮太郎		1998	国外	国外	
11	MF	遠藤渓太		1997		国外	201912
12	GK	大迫敬介	登録	1999			
13	FW	上田綺世	登録	1998			201906
14	MF	森島司		1997			201912
15	DF	岡崎慎		1998			
16	MF	相馬勇紀	登録	1997			201912
17	DF	町田浩樹	登録	1997			
18	FW	田川亨介		1999			201912
19	FW	旗手怜央	登録	1997			202203
20	DF	吉賀太陽		1998			201912
21	MF	松本泰志		1998			
22	DF	橋岡大樹	登録	1999			201912
23	GK	谷晃生	登録	2000			

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

す。その後、田中碧など頑張ってますが、この段階で振り返ると「なんちゃってフル代表」ですね。ところが日本の本大会。メンツはやはりいいんです。オーバーエイジで酒井宏樹と遠藤が入ってきて、フル代表で頑張っているような選手が 8 人います。先ほども言いましたが、本当のフル代表に入った年がこちらです。相馬勇紀はまだ本当の代表には入ってないんですね。橋岡も。日本は、相対的に言うならば、オリンピックにいい選手を集めてベスト 4 を目指す。もっと期待したと思いますが、それなりの結果を残しました。

参考までに日本の本大会の登録選手

No.	位置	氏名	予選登録	OA登録	生年	予選時所属	本大会所属	フル代表	フル代表（年齢制限なし）
1	GK	大迫敬介	登録		1999			201906	
2	DF	酒井宏樹		OA	1990	国外	国内移籍	201205	201205
3	DF	中山雄太			1997	国外	国外	201906	202010
4	DF	板倉滉			1997	国外	国外	201906	201909
5	DF	吉田麻也		OA	1988	国外	国外	200912	200912
6	MF	遠藤航		OA	1993	国外	国外	201508	201508
7	MF	久保建英			2001	国外	国外	201906	201910
8	MF	三好康児			1997	国外	国外	201906	202011
9	FW	前田大然			1997	国外	国内移籍	201906	202201
10	MF	堂安律			1998	国外	国外	201809	201809
11	MF	三笘薫			1997			202111	202111
12	GK	谷晃生	登録		2000				
13	FW	旗手怜央	登録		1997			202203	202203
14	DF	冨安健洋			1998	国外	国外	201810	201810
15	DF	橋岡大樹	登録		1999		国外	201912	
16	MF	相馬勇紀	登録		1997			201912	
17	MF	田中碧	登録		1998		国外	201912	202110
18	FW	上田綺世	登録		1998			201906	202203
19	FW	林大地			1997				
20	DF	町田浩樹	登録		1997				
21	DF	瀬古歩夢			2000				
22	GK	鈴木彩艶			2002				

ここまで見てくると、新型コロナの影響で一年延びちゃった、無観客だった、盛り上がらなかったと、なんとなくコロナのせいにしてしまいそうですが、一年延期になって選手が成長したこともあり、各選手の所属チームでかえかけがえのない選手になってしまった。所属チームは選手を出さないことになり、フランスやドイツはアマチュアに近い選手を登録した。実際にアマ登録の選手がドイツにいます。殆ど太平洋戦争末期の日本軍みたいな世界だったんですよ。

このような傾向を考えると、23 歳以下のワールドカップの位置付けをオリンピックが維持するのは困難ではないかと思います。今回はたまたまコロナのせいかと思っていましたが、そうではないのではないか。オリンピックは 7 月、8 月、9 月にやらなければならないのですが、夏だからではなく、23 歳以下のワールドカップはもう開催できない。唯一できるのは、本物のワールドカップをやっているときだけです。本物のワールドカップを、例えばカタールでやっている時に、23 歳以下のワールドカップをアルゼンチンでやりましょうと…。まあそういう訳にはなかなかいかないと思いますけどね。

オリンピックの男子サッカーに関する私の提言は二つあります。まず一つは、エキシビジョンマッチ化ということです。これは現在のオリンピックのテニスやゴルフと同じです。要は、何らかの大陸別世界ランキングを作って推薦出場にする。年齢制限を設けずに、世界のスター選手が集う場とするということで、まさに現在のテニスとゴルフです。私はオリンピックをぶっつぶせという気はないし、オリンピックでサッカーをなくしてしまうという話でもないと思います。オリンピズムの実現にはすごく価値があると思います。やはりテニスやゴルフで世界のトップ選手が集まってくるのにはすごく意味がある。だからサッカーもそのようにするのが一つです。

もう一つは、現在の野球モデルです。メジャーリーグ以外、メジャーっていうのはアメリカのメジャーリーグだけではなく主要なリーグぐらいの選手の大会にしてしまう。つまり、おそらく欧州の 5 大リーグはオリンピックに選手を派遣したくないわけです。すぐ後にシーズンが始まるから。ということで、オリンピックに選手を派遣することを拒否しないリーグの協力を取り付けて年齢制限を外す。

ちなみにドイツのオリンピックチームに一人だけ海外組がいました。その選手の所属は横浜 FC です。メジャーではないリーグの選手を集めて年齢制限を外す。この二つのどちらかしかないですね。そうでもしないとオリンピックのサッカーは生き残れないと思います。

私は、オリンピックはすごく大事な大会で、単なる世界選手権ではなく、オリンピズムの発揚の場で、世界平和の場だと思います。例えばオリンピックのサッカーにメッシやネイマールやクリスティアーノ・ロナウドが来て「戦争やめようぜ」って言えば、プーチンも戦争をやめるかもしれません。バイデンが何を言おうが、亡くなった安倍晋三さんが何を言おうが聞いてはくれないけど、クリスティアーノ・ロナウドが言ったら戦争やめるんじゃないかと、私は真面目に思ってます。そういう形でオリンピック

は生き残っていくべきではないかなと考えています。

なぜこんなことになってしまったのかというと、ヨーロッパの所属クラブが世界の代表チームよりも力が強くなってきているからです。1990 年代あたりからの動きになりますが、いろんなところで歪みが起きています。今回のオリンピック東京大会で、決定的にこの力関係が大きくなったのではないかと考えています。予選はインターナショナル・マッチデイに設定されるので年代別のベストメンバーが可能だけど、本大会は…。

アジアはカレンダーがヨーロッパと違うので、先ほどの日本ではありませんが、年代別メンバーが可能です。韓国は予選の時もベストメンバーを揃えました。国内組を一所懸命集めました。

我々も単純に世界の選手が羽ばたいてきて喜んでいるというのは、それはそれでいいことかもしれませんが。このようにみると、どこかで歪みや無理が生じてくるのではないかと。

ここまでがオリンピックの話です。ここで何か質問とかあれば。

＜ディスカッション①＞

中塚：ありがとうございます。一年延期で去年開催されたオリンピックをこういう視点で改めてみるのは非常に興味深いですね。井上さんならではの視点を示してもらえたと思います。ここまでのところで質問や感想があれば。張さんが手を挙げられましたね。

張　：面白い話をありがとうございました。結局、オリンピックにはたいした選手が来てないと、ここまできちんと抑えられ、その通りだと思います。ただ、その解釈のところで僕は結構違っています。オリンピックはもともとアマチュアサッカーのナンバーワンを決める大会です。どうしてもオリンピックでサッカーをやりたいと IOC が言うので、FIFA は、別にやらなくてもいいけど U-23 大会としてならやってもいいよということで手を打ったのが歴史だと僕は理解しています。だから、オリンピックがもともと U-23 のワールドカップだとは考えていない国がたくさんあると思っています。それがサッカー界では当たり前だと思っていて、オリンピックでそんなに無理してやらなくてもいい。オリンピックで本当の代表チームのサッカーをやらなきゃいけない、やらないとおかしいという問題認識自体が僕にはないんです。だから、なんでこれが問題なの、いいじゃんっていう感じです。

井上：ちなみに主催者は二ついると思います。FIFA は主催者と言えないかも知れませんが。さっきも少し言いましたけれど、IOC にとってサッカーはすごく重要なんです。

張　：FIFA はどうでもいいんだと思いますよ。

井上：FIFA はどうでもいいのかもしれません。けどオリンピックって基本的に IOC の大会なので、IOC はとにかく、サッカーをもっとプロモーションしていきたいということですね。これは第 2 部で話をしますが、欧州選手権がなぜ始まったのか。いま張先生は、オリンピックはアマチュアの大会だとおっしゃいましたが、アマチュアの大会ではなかったんですね、かつては。

張　：大昔ですね。その後、中間はアマチュアの大会になって。

井上：オリンピックにプロまがいの選手がたくさん出てきて、色々問題になった時期がありました。

張　：ステートアマですね。

井上　ステートアマもそうですし、アマチュアと偽って出てくるプロの選手もいました。西側諸国です。そういうグレーな話もあり、それに終止符を打とうとして作った大会が欧州選手権です。FIFA としては、自分たちがやっている大きな大会は三つある、一つ目がワールドカップ。二つ目がオリンピック。三つ目が、昔はワールドユースと言っていた U-20 のワールドカップ。こういう形で FIFA も三つのメジャー大会と言っていた時期があります。

いずれにせよ IOC、あるいはオリンピックをやりたい人にとってサッカーは最もお金が動く競技です。マラソンがオリンピックの花であるならば、サッカーはオリンピックの実です。ということなので、こういう状況はオリンピックにとって決していいことではないという傾向が今回あったということです。

張　：ありがとうございます。もう一つだけ、ちょっと違う視点から。井上先生は、欧州の所属クラブの力が各国で代表チームを作るよりも力が上になっていることが問題だというとらえ方をされてるようですが、僕はこれは当たり前だと思っています。サッカーの世界ではクラブのほうが FIFA とか世界大会よりも大事なんだと考えています。なのでこれも別にいいじゃんという感じです。

井上　別にいいじゃん、なんですけど、こういう事なんですね。かつてオリンピックが、サッカーに限らずアマチュアの時代だった時に、仕事や学業を優先してオリンピックに出られない人が世界中にたくさんいたんです。それと全く同じ事がいまサッカーで起こっている。つまり自分の仕事は何か。それはマンチェスター・ユナイテッドやパリ・サンジェルマンでサッカーをすることです。それを優先すると、オリンピックに出られないんです。今回有名になった話として、キリヤン・ムバッペは東京オリンピックに行きたいとクラブに直訴したらしいんです。そうしたらお前行っちゃダメだって言われた。そういう選手はたくさんいるんです。オリンピックに行きたいけど行かれなかった選手が。それは一昔前のアマチュアの時に、学業や仕事を優先してオリンピック出られなかったのと全く同じなんです。

張　：そこを、お前はワールドカップ行くからいいではないかっていうことでいいと思うんですけどね。

井上：そういうことですね。いい質問をありがとうございます。見ているところは全く同じだと思います。ありがとうございました。

中塚：ほかの方はどうでしょう。春日さんどうぞ。

春日：サロン 2002 理事の春日です。私も「23 歳以下のワールドカップ」という言葉に違和感がありながら聞いておりました。IOC として、サッカーは集客が望めるので力を入れたいというところは間違いないと思います。私もドイツに住んでいたので、オリンピック熱がヨーロッパにはないことはもちろんわかっている中で、これは一体どこから発信された言葉なのかなと。

井上：FIFA です。

春日：FIFA 発信ですか。

井上：もうひとつ言うならば、20 歳以上の年齢別大会には地域大会、大陸別大会がありますが、世界大会はないんです。世界大会は正式な言葉で言うならば、U なんとかのワールドカップは 20 歳までしかありません。

春日：そうですね。旧ワールドユースですね。

井上：旧ワールドユースです。ところが 20 よりも上の歳の地域別、大陸別の大会はみんなあります。そのギャップがあるんです。大陸別大会はあるけれども世界選手権がない。そこを埋めているのがオリンピックです。

春日：なるほど。しかし選手の目線からいくと、そんな長い期間、国際大会をやられたら体が持たないだろうなと思います。本当に FIFA が心からそう思って言ったのか、IOC の圧力でそう言わざるを得なくなったのかということを深読みしてしまいます。もし FIFA が言ったとしたら、その心はどこにあるのかというのは率直な疑問としてあります。それだけ 2 年刻みで世界大会をやり続けなければいけない背景がどこにあるのか。本当にプレイヤーズファーストの考え方でのオリンピックなのか、その裏側を勘ぐってしまうというところが非常にあります。

井上：おっしゃる通り過重労働になりますね。23 歳ぐらいだとクラブでも試合に出ないといけません。中核選手として試合に出ないといけないので、まさに二刀流です。大谷翔平みたいな働きをしなきゃいけないことになってしまうんですね。

春日：そうですね。ペドリが、コンディションが伴わなくてプレイできない時期があったので、FIFA が本気でそう言ってるんだったらカレンダーどうにかしろということを思いました。それを含めて商業的な、あるいは IOC からのプレッシャーがあるのかなと思いました。感想です。

中塚：IOC はあらゆる種目で世界のトッププレーヤーを集めたいということを、特にサマランチの頃から言い出しました。FIFA としては 23 歳以下で区切りたかったけど、IOC との妥協の産物としてオーバーエイジが 96 年のアトランタから導入されましたね。だから、世界の二大バケモノ組織が互いに綱引きというか、足の引っ張り合いというか、妥協の産物というか、なんかわけのわからんことになってるなという感じですね。

井上：そういう妥協の産物みたいなわけわかんなくなっているにもかかわらず、一番観客動員があることは事実なんですね。

中塚：そうですね。本郷さんからも手があがっています。この質問で最初のところを終えたいと思います。本郷さんお願いします。

本郷：本郷です。張さんや春日さんが言ったのと一部重複しますけど、特定のクラブのサポーターをしていると、拘束力のない代表、しかもオリンピックで A 代表でもないのに、しかも呼ばれても試合に出られないんだったらもう呼ばんといてよ、という気になることもあります。
　春日さんが言っていた、そもそもカレンダーがめちゃくちゃで、特にヨーロッパのトップリーグの人たちはいつ休むの、みたいな感じですね。週 2 回ずっと試合していることがほぼ一年続くような状態です。どうしたらいいんでしょう、オリンピックとか。

井上：まさにその通りです。カレンダーが本当にめちゃくちゃ過重労働になっています。過重労働に関しては 10 年ぐらい前からかなり状況は改善されています。競技が違いますけど、日本における佐々木朗希の成功は、スポーツ界が働き方改革を本当に、猛烈に進めていることの反映です。するとたぶん、最初に外されるのはオリンピックでしょう。外すにはちょうどいいですね。
　ヨーロッパのクラブは全部、うちのチームの所属選手をオリンピックに招集しないでくれと、各国協

会にレターを出しています。久保選手がパリ・サンジェルマンに移籍する噂が流れたんですが、彼がもしパリ・サンジェルマンに行っていたら、オリンピックには出られなかったでしょう。パリ・サンジェルマンはオリンピックに仕方なく 1 人出しました。アマチュア選手です。しかも酷いことに、オリンピックが終わってから 3 日たったらその選手を移籍させました。そういう放出要員だけをオリンピックに送っちゃう。クラブも勝たなければダメですから、当然の行為でしょう。

中塚：では井上さん、次に進みましょうか。ここまで出てきた話ともすごく関係してくる思いますので。

Ⅱ．ヨーロッパサッカーの変貌－ネーションズリーグの創設

では後半戦に移ります。今度はヨーロッパのフル代表の話です。

2018 年に始まったヨーロッパの UEFA ネーションズリーグ。ちょうど今回、日本がワールドカップで当たるスペインがポルトガルに勝ちました。UEFA ネーションズリーグが始まったことは、ご存知の方がおられると思います。2018 ワールドカップの後にできた大会です。目的は、限られたインターナショナル・マッチデイにせっかく代表チームを集めるのなら、有効に使わなければいけないということです。レベルが近い相手との真剣勝負を増加させていきたいというのがねらいです。

改善すべきヨーロッパサッカーの課題は、いわゆる上位国は強い。例えばフランスやベルギー、ドイツといったチームは、予選では力量の離れたチームとも試合します。くじ引きがありますから。どうしてもリヒテンシュタインとかアンドラとかモルドバとか、地理の授業でしか習わないような国とも試合をしなくてはならない。やる前から 15-0 になるような試合があるわけです。一方で、力が似通ったチームとはなかなか試合ができません。親善試合か、またはワールドカップかヨーロッパ選手権の本大会しかありません。また、下位の国がドイツやフランスと試合をやってもあまり練習になりません。試合にならない。ということで、同レベルの国との、親善ではない試合。強いチームはみんな引きがあるわけです。いくら力の差があっても、強いチームは見てみたい。クリスティアー・ロナウド見たいな、キリアン・ムバッペ見たいなという感じで、人気のある強いチームには引きがあります。弱いチームは引きがなくて、親善試合もなかなかできません。

これは 2017 年のフランスの例です。この年、フランスは 1 年間で代表戦を 11 試合しています。黄色い部分がいわゆるタイトルマッチで、緑が親善試合。先ほど言った通り、世界ランク 133 位のルクセンブルクとも試合しなければなりません。親善試合ではスペイン、パラグアイ、イングランドなど

2017年のフランス代表の全試合（11試合）

Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2017/3/25	ルクセンブルク	133	ワールドカップ予選	A
2	2017/3/28	スペイン	10	親善試合	H
3	2017/6/2	パラグアイ	40	親善試合	H
4	2017/6/9	スウェーデン	41	ワールドカップ予選	A
5	2017/6/13	イングランド	13	親善試合	H
6	2017/8/31	オランダ	22	ワールドカップ予選	H
7	2017/9/3	ルクセンブルク	133	ワールドカップ予選	H
8	2017/10/3	ブルガリア	72	ワールドカップ予選	A
9	2017/10/10	ベラルーシ	74	ワールドカップ予選	H
10	2017/11/10	ウェールズ	12	親善試合	H
11	2017/11/14	ドイツ	3	親善試合	A

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

これを対戦相手の世界ランキング順に並べると

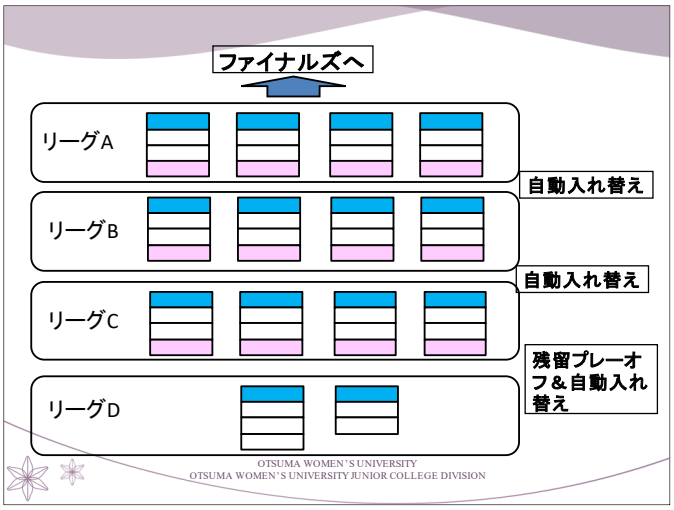
Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
11	2017/11/14	ドイツ	3	親善試合	A
2	2017/3/28	スペイン	10	親善試合	H
10	2017/11/10	ウェールズ	12	親善試合	H
5	2017/6/13	イングランド	13	親善試合	H
6	2017/8/31	オランダ	22	ワールドカップ予選	H
3	2017/6/2	パラグアイ	40	親善試合	H
4	2017/6/9	スウェーデン	41	ワールドカップ予選	A
8	2017/10/3	ブルガリア	72	ワールドカップ予選	A
9	2017/10/10	ベラルーシ	74	ワールドカップ予選	H
1	2017/3/25	ルクセンブルク	133	ワールドカップ予選	A
7	2017/9/3	ルクセンブルク	133	ワールドカップ予選	H

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

とやっています。11 試合やりましたが、世界ランキング順に並べるとこうなります。上位はみんな親善試合、弱いチームがワールドカップですね。

これはワールドカップで優勝する前の年なんですが、当時のフランスの世界ランキングは 7 位です。すると、フランスにとって自分の力にあったチームと試合ができるのは親善試合だけです。オランダはそこそこ近いかと思いますが、とにかく力が離れたチームとしか試合ができません。こういう問題がありました。

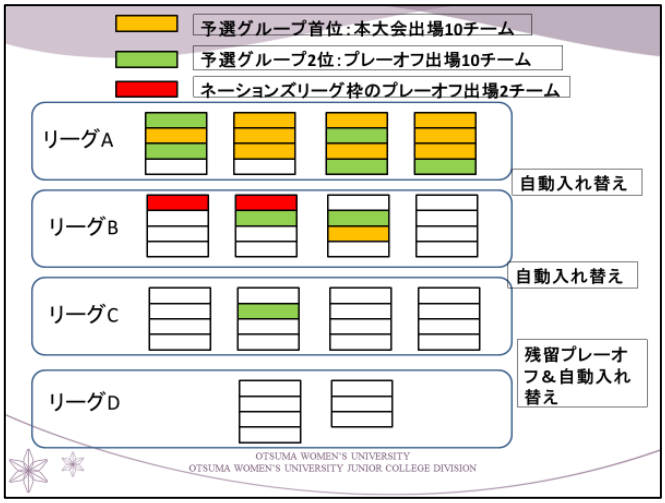
逆もあります。例えばルクセンブルグにとって、フランスと試合しても得るものはあまりないでしょう。例えばルクセンブルクがベラルーシと試合するなら、勝つか負けるかわからなくていいと思いますが、強いチームとやっても観客動員以外に得るものはありません。



それを受けて始まったのが UEFA ネーションズリーグです。UEFA 所属の 55 協会が参加しています。4 つのレベルに分けて、4 チームずつのグループに分かれてリーグ戦をします。最上位のリーグ A の 4 チームはファイナルズを実施してチャンピオンを決めます。上位リーグの最下位チームは下位リーグと入れ替え。言葉で書いてもわかりにくいのですが右図のとおりです。

リーグ A からリーグ D まで 4 つのレベルに分かれています。各リーグは 4 つのグループで構成され、この 4 チームでホームアンドアウェーでリーグ戦をします。リーグ A は 1 部です。この 4 チームは、ファイナルズという形でどこかに集まり、1、2、3 位を決めます。この赤いところは自動入れ替えで、下のリーグ B と入れ替えになります。リーグ C とリーグ D の間だけ残留プレーオフがあり、4 チームでプレーオフをやって、負けた 2 チームがリーグ D 首位の 2 チームと入れ替わる。このように、サッカー界では珍しい能力別、習熟度別クラスを作ったということです。

これがワールドカップ予選や欧州選手権とどういう関係あるのかということです。ネーションズリーグでグループ首位の上位 2 チームには、上記予選のプレーオフ出場権が与えられます。2022 年、今回のワールドカップ予選からこのルールが適用されました。ワールドカップ予選でグループ首位で本大会にストレートインするチーム、2 位でプレーオフに進むチームを除外し、残ったチームのうち各リーグのトップの中の上位 2 チームにプレーオフ出場権が与えられます。今回はオーストリアとチェコですね。なので、ネーションズリーグで良い成績を残すことは、ワールドカップや欧州選手権の予選で有利になるということなのです。

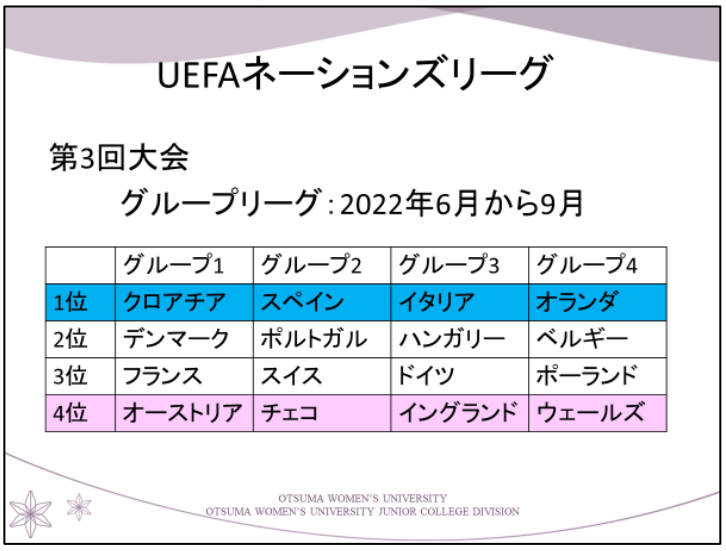


第 1 回大会が 2018 年 9 月から 11 月にかけてグループリーグが行われ、翌年 6 月にポルトガルでファイナルズ。優勝はポルトガル。続いてオランダ、スイス、イングランドの順です。

前回大会は 2020 年 9 月から 11 月にグループリーグ。コロナ禍で唯一行われた大会ですね。優勝がフランスで、以下スペイン、イタリア、ベルギーの順。

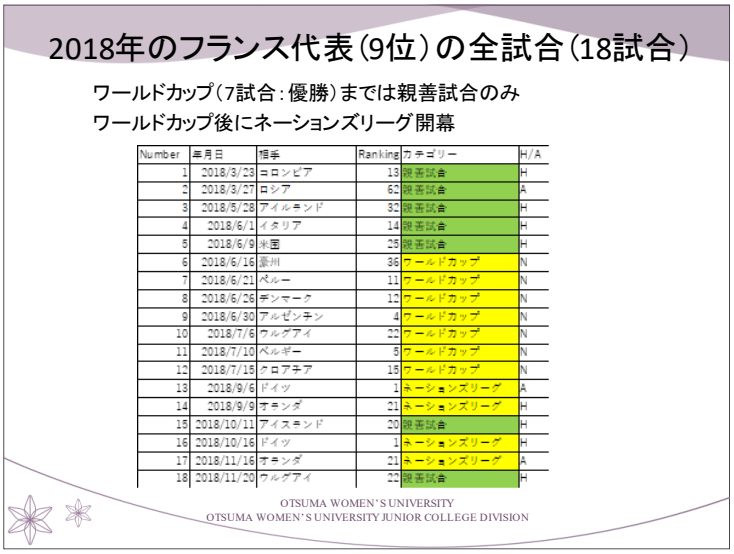
第 3 回大会がいまちょうどグループリーグが終わったところです。グループ 1 ではクロアチア、グループ 2 ではスペインがポルトガルに勝ち、1 位になりました。あとはイタリア、オラン

ダ。イングランドは次の大会からグループ B に落ちてしまいます。クロアチア、スペイン、イタリア、オランダが、来年 6 月、たぶんオランダでファイナルズを行います。ファイナルズはこの 4 つのうちどこかでやるのですが、グループ首位が決まった段階で、まずグループ内の 4 チームで話し合います。今回はグループ 4 のチームがファイナルズに立候補するということでした。だからもしもウェールズが優勝した場合は、ウェールズでヨーロッパ 1 位を決めるという大会です。



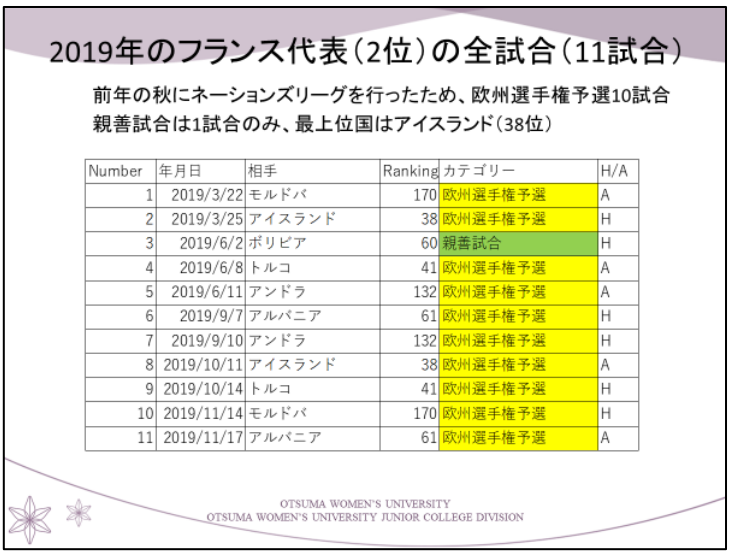
	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
1位	クロアチア	スペイン	イタリア	オランダ
2位	デンマーク	ポルトガル	ハンガリー	ベルギー
3位	フランス	スイス	ドイツ	ポーランド
4位	オーストリア	チェコ	イングランド	ウェールズ

これで実力の均衡した相手との試合ができるということですが、何が起こったかというと、タイトルマッチ、真剣勝負が増えて、親善試合が減少します。フル代表の試合は、日程的に年間 17 試合しかできません。親善試合が減ってくると、欧州以外のチームと欧州のチームが試合することがなくなります。その結果、今年 6 月に日本はブラジルと試合ができました。日本は喜びましたが、実は喜ぶべきはブラジルです。ブラジルはヨーロッパのチームと試合をやりたいのですが、ヨーロッパのチームはみんなこの時期にネーションズリーグの試合をしています。ブラジルにとって、ある程度骨のあるチーム、日本と韓国と試合ができたというのはすごく大きいですね。ネーションズリーグができたから、日本 vs ブラジル戦が成立したと言ってもいいぐらいです。



Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2018/3/23	コロンビア	13	親善試合	H
2	2018/3/27	ロシア	62	親善試合	A
3	2018/5/28	アイルランド	32	親善試合	H
4	2018/6/1	イタリア	14	親善試合	H
5	2018/6/9	米国	25	親善試合	H
6	2018/6/16	豪州	36	ワールドカップ	N
7	2018/6/21	ペルー	11	ワールドカップ	N
8	2018/6/26	デンマーク	12	ワールドカップ	N
9	2018/6/30	アルゼンチン	4	ワールドカップ	N
10	2018/7/6	ウルグアイ	22	ワールドカップ	N
11	2018/7/10	ベルギー	6	ワールドカップ	N
12	2018/7/15	クロアチア	18	ワールドカップ	N
13	2018/9/6	ドイツ	1	ネーションズリーグ	A
14	2018/9/9	オランダ	21	ネーションズリーグ	H
15	2018/10/11	アイスランド	20	親善試合	H
16	2018/10/16	ドイツ	1	ネーションズリーグ	H
17	2018/11/16	オランダ	21	ネーションズリーグ	A
18	2018/11/20	ウルグアイ	22	親善試合	H

先ほどから皆さんにご指摘いただいた通り、欧州クラブの所属選手は活動が制限されます。もちろん J リーグもそうですが、インターナショナル・マッチデイしか代表での試合はできません。欧州の代表チームは欧州域内で公式戦を行ってしまう。するとどう変わってきたのか。2018 年、ちょうどワールドカップでフランスが優勝した年の全試合が右のとおりです。当然、ワールドカップ前の 3 月と 5 月は親善試合だけですね。本大会で 7 試合やって優勝します。終ったところでネーションズリーグ。親善試合が 10 月と 12 月に 1 試合ずつです。ワールドカップ後は 2 試合しか親善試合をしていません。ワールドカップ前は 5 試合やっています。



Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2019/3/22	モルドバ	170	欧州選手権予選	A
2	2019/3/25	アイスランド	38	欧州選手権予選	H
3	2019/6/2	ボリビア	60	親善試合	H
4	2019/6/8	トルコ	41	欧州選手権予選	A
5	2019/6/11	アンドラ	132	欧州選手権予選	A
6	2019/9/7	アルバニア	61	欧州選手権予選	H
7	2019/9/10	アンドラ	132	欧州選手権予選	H
8	2019/10/11	アイスランド	38	欧州選手権予選	A
9	2019/10/14	トルコ	41	欧州選手権予選	H
10	2019/11/14	モルドバ	170	欧州選手権予選	H
11	2019/11/17	アルバニア	61	欧州選手権予選	A

2019 年の親善試合は 1 試合だけです。欧州選手権が 3 月から 11 月まで。ネーショ

ンズリーグが始まったので欧州選手権をこの年にやるしかないということで、1 回しか親善試合は行っていません。

2020 年はコロナの関係もあって、上半期が全部潰れてしまいました。下半期の 9 月に 2 試合、10 月に 3 試合、11 月に 3 試合ありましたが、親善試合は 2 試合しかしていません。しかも、コロナの影響もあったと思いますが、ヨーロッパのチームとしか試合をしていません。

2021 年には親善試合が 2 試合で、あとはワールドカップ予選と欧州選手権の本戦で、見渡す限り黄色い試合（真剣勝負）ばかりでした。

2022 年になると 3 月にアフリカのチームと親善試合 2 試合。あとは全部ネーションズリーグです。そしてワールドカップの本大会が 11 月から始まります。

今回、ワールドカップの初戦でオーストラリアと対戦します。コロナの影響があったかもしれませんが、フランスにとってアジアの国と対戦するのはなんと 4 年ぶり。ということで、ほとんどヨーロッパのチームとしか試合をしなくなっているんですね。

2017 年までは、ヨーロッパの代表チームはワールドカップ予選と本大会、欧州選手権の予選と本大会、そして親善試合がありました。しかし 2018 年以降、ネーションズリーグができたおかげで親善試合の数はすごく少なくなりました。そしてヨーロッパのチームとの対戦がほとんどです。ワールドカップ本大会になると域外のチームとも試合をします。親善試合もできますがウェイトが小さくなっています。

キリンカップなんて所詮、と言っては失礼かもしれませんが、親善試合のカテゴリーでしかありません。キリンカップやキリンチャレンジカップと銘打って試合をしようとしても、ヨーロッパのチームは年に 1～2 試合しか親善試合がやれなくなって

2020年のフランス代表（2位）の全試合（8試合）

新型コロナウイルスの感染拡大で9月まで試合ができず
欧州選手権は2021年に延期
ネーションズリーグで上位国と対戦
対戦相手は欧州勢のみ

Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2020/9/5	スウェーデン	17	ネーションズリーグ	A
2	2020/9/8	クロアチア	6	ネーションズリーグ	H
3	2020/10/7	ウクライナ	24	親善試合	H
4	2020/10/11	ポルトガル	7	ネーションズリーグ	H
5	2020/10/14	クロアチア	6	ネーションズリーグ	A
6	2020/11/11	フィンランド	58	親善試合	H
7	2020/11/14	ポルトガル	7	ネーションズリーグ	A
8	2020/11/17	スウェーデン	17	ネーションズリーグ	H

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

2021年のフランス代表（2位）の全試合（16試合）

親善試合は欧州選手権前のみ
欧州選手権の前後にワールドカップ予選
ネーションズカップのファイナルズ
対戦相手は欧州勢のみ

Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2021/3/24	ウクライナ	24	ワールドカップ予選	H
2	2021/3/28	カザフスタン	122	ワールドカップ予選	A
3	2021/3/31	ボスニア・ヘルツェ	56	ワールドカップ予選	A
4	2021/6/2	ウェールズ	18	親善試合	H
5	2021/6/8	ブルガリア	68	親善試合	H
6	2021/6/15	ドイツ	13	欧州選手権	N
7	2021/6/19	ハンガリー	40	欧州選手権	N
8	2021/6/23	ポルトガル	5	欧州選手権	N
9	2021/6/28	スイス	16	欧州選手権	N
10	2021/9/1	ボスニア・ヘルツェ	56	ワールドカップ予選	H
11	2021/9/4	ウクライナ	24	ワールドカップ予選	A
12	2021/9/7	フィンランド	55	ワールドカップ予選	H
13	2021/10/7	ベルギー	1	ネーションズリーグ	N
14	2021/10/10	スペイン	6	ネーションズリーグ	N
15	2021/11/13	カザフスタン	122	ワールドカップ予選	H
16	2021/11/16	フィンランド	55	ワールドカップ予選	A

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

2022年のフランス代表（2位）の試合（11+α試合）

3年ぶりに欧州域外の国と対戦（親善試合）
6月からネーションズリーグが開幕
ワールドカップ前の親善試合は行わず（10月は欧州カップ）
4年ぶりにアジア勢と対戦（豪州：ワールドカップ）

Number	年月日	相手	Ranking	カテゴリー	H/A
1	2022/3/25	コートジボワール	51	親善試合	H
2	2022/3/29	南アフリカ	68	親善試合	H
3	2022/6/3	デンマーク	9	ネーションズリーグ	H
4	2022/6/6	クロアチア	15	ネーションズリーグ	A
5	2022/6/10	オーストリア	30	ネーションズリーグ	A
6	2022/6/13	クロアチア	15	ネーションズリーグ	H
7	2022/9/22	オーストリア	30	ネーションズリーグ	H
8	2022/9/25	デンマーク	9	ネーションズリーグ	A
9	2022/11/22	豪州	37	ワールドカップ	N
10	2022/11/26	デンマーク	9	ワールドカップ	N
11	2022/11/30	チュニジア	36	ワールドカップ	N

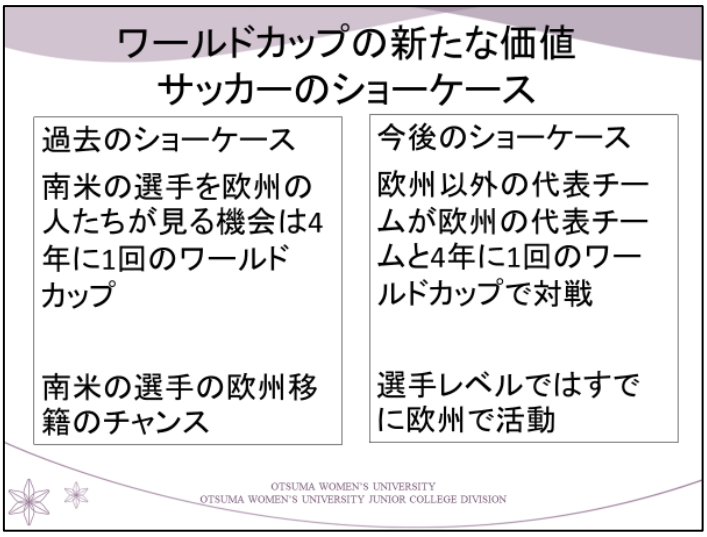
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY
OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

いるので、そこで日本を選ぶというのはよっぽど価値あることだと思うんです。キリンカップのような大会も、この流れに大きく影響を受けるのではないでしょうか。

キリンカップは、国際的な代表チームによるトーナメントとしては、賞金も高いしプレステージもある大会です。クラブの交流戦はたくさんありますが、代表チームであれだけやってくれる大会は、世界的に見てもないのではないでしょうか。そういうものも今回危機に瀕するのではないかと考えます。

ヨーロッパの代表チームの親善試合が減ってしまうと何が起こるか。ヨーロッパの代表チームとの試合は 4 年に 1 度のワールドカップに限られます。日本人の視点からいくと。あれだけヨーロッパでクラブの試合をやっているのに、代表チーム同士だと日本 vs ブルガリアとか日本 vs ベルギーの試合は、本当にワールドカップしか見られません。これは、ヨーロッパの代表サッカーがローカル化、ブロック化している流れになっていると考えます。代表チームの試合は、選手も観客も欧州域内が対象です。ローカル化ですね。わかる人は笑ってほしいんですけど、昔のダイヤモンドサッカーです。オタク化です。地元のファンだけですね。

ではクラブ側がどうなるかというと、先ほどの質問にあったように、選手も観客も全世界から、クリスチアーノ・ロナウドとかメッシだとか、全世界の選手が集まり、全世界の観客を集めるんです。グローバル化です。



アマゾン・プライムという表現が正しいかどうかわかりませんが、世界中、誰でもどこでも、とにかく契約すれば誰でも見られる。大衆化するということです。だから、これが当たり前ではないのかと皆さんが言われたことは当然です。そのようになって、ではワールドカップにはどのような価値があるのかということです。

サッカーのショーケースとは、昔からよく言われてきました。南米の選手をヨーロッパの人たちが見るのは、4 年に 1 度のワールドカップしかありませんでした。ブラジルにペレという選手がいるらしい、ガリンシャという選手がいるらしい。アルゼンチンにケンペスという選手がいるらしい。こういう選手をワールドカップ見て、そしてヨーロッパのチームに移籍する。このような形で、南米の選手にとっても欧州チケットのチャンスとなるわけです。見本市ですよね。

ところが、今後のショーケースとはどういうことかというと、ヨーロッパ以外の代表チームは、ヨーロッパの代表チームと 4 年に 1 度のワールドカップで対戦します。日本にしてみれば、普段はアジアのチームとしか試合しませんが、ヨーロッパのチームとは 4 年に 1 度。アフリカも、南米も同様です。

南米だろうがアフリカだろうが日本だろうが、選手はすでにヨーロッパで活躍しています。にも関わらず代表チームになると、ヨーロッパのチームとの試合がなくなってしまう。こうしてワールドカップは、新しい価値を私たちに与えてくれるのではないでしょうか。

Ⅲ．FIFA ワールドカップの変化

ではワールドカップは、どのように変化していくのでしょう。

我々日本人にとって、ワールドカップにはすごく意味があります。昔は 6 月になったらキリンカップをやって、ヨーロッパの大きなところも小さいところも来る。数チーム見られました。いまヨーロッパのチームは来てくれません。このように変化しているわけで、今後はワールドカップの舞台でしか、4 年

に 1 回しか会えなくなります。

私自身は 2022 年カタール大会というのは、「最初」か「最後」のワールドカップになるのではないかと考えています。ワールドカップの位置づけ、価値観が変化していくのではないか。

2 つの変化があると考えます。2022 年大会は日程面の変化。2026 年は出場国数の拡大。この 2 つです。いろんな理由でこういう結論になったと思いますが、これがワールドカップの価値も大きく変えることでしょう。

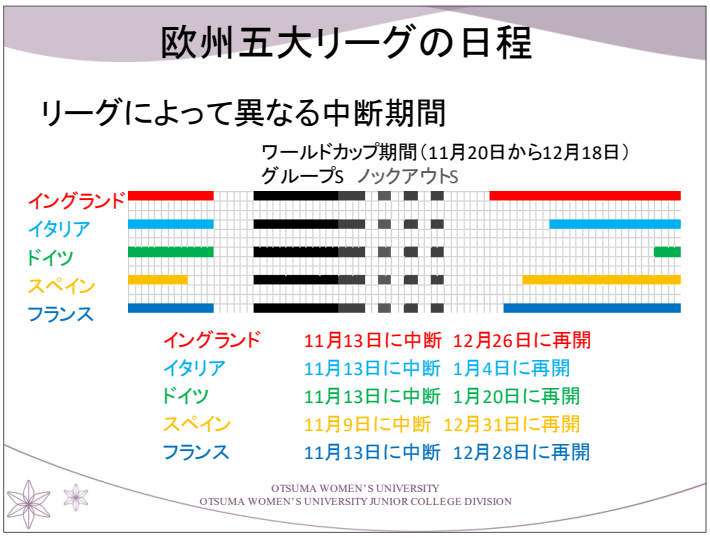
１．日程面での変化

まず日程面の変更です。いままでワールドカップはだいたい 6 月から 7 月にかけて行われていましたが、カタール大会では秋になります。これはカタールの気候上の理由による開催時期の変更で、こんなことがあるんだなと思っていましたが、視点を変えるとシーズン中の開幕、開催になるということです。サッカーの現場で仕事をされている方にご意見を伺ってみたいのですが、団体球技の世界大会の実施時期を考えてみました。主要リーグのシーズン前に行っている世界大会は、例えば野球の WBC があります。3 月開催ですね。それから今やっているバスケットボールのワールドカップ。同じく今やっているバレーボール。バレーボールは主要リーグという概念がないのですが、バレーボールもシーズン前ですね。シーズン中に行っているのがラグビー。シーズン後に行っているのがサッカーですね。

ということで、シーズン後に開催する世界大会はサッカー以外にありません。それが今回、主要リーグのシーズン中に入りました。リーグ戦とワールドカップの日程が逆転するわけです。ヨーロッパに関してはリーグ戦を中断しています。後で話をしますが、シーズン中のワールドカップです。

日本は春秋制なので、リーグ日程を前倒しし、天皇杯も 10 月 16 日に決勝です。リーグ戦は 11 月 6 日が最終戦。そこまでに終わらせる感じです。日本にとって今回のワールドカップは、今までのヨーロッパと同じになります。シーズン後のワールドカップです。

ヨーロッパの 5 大リーグの日程を見てみます。ワールドカップは 11 月 20 日から 12 月 18 日まで行われる大会で、グループステージ、ノックアウトステージがこういう感じに行われます。イングランド、イタリア、ドイツ、スペイン、フランスの 5 大リーグも、大体 11 月 9 日か 13 日で中断します。日本より 1 週間遅く、本大会の開幕まで 1 週間です。

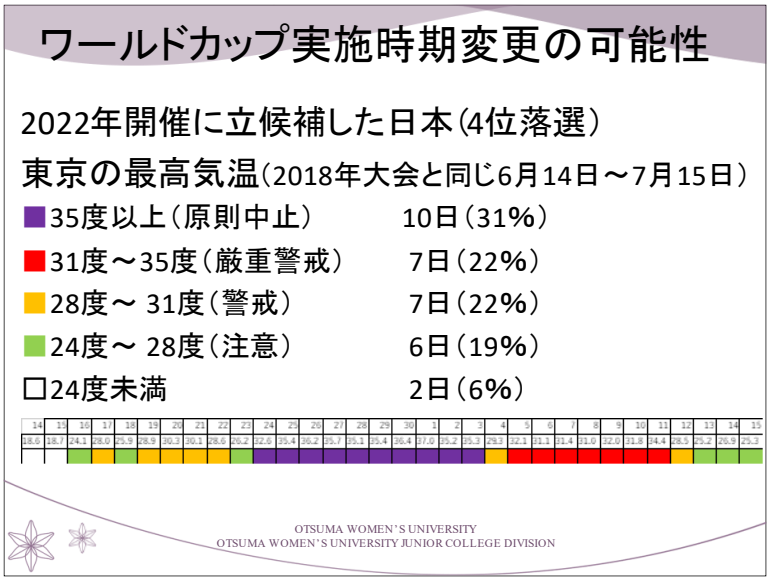


再開時期が面白くて、イングランドとフランスはワールドカップ後すぐ、決勝の 1 週間ぐらいあとに始めます。イタリアやスペインは異なります。イタリアは年が明けてから。ドイツは 1 月 20 日に再開です。こんな感じでシーズンど真ん中にワールドカップを行うのです。

日本は先日、アメリカとエクアドルと試合をしました。メンバー発表前の最後の機会です。カナダと 11 月に試合をするのは、みんな欧州組なので、代表チームの準備がまともにできるのかなと感じます。ヨーロッパはとにかくリーグ戦が終わった後、1 週間でワールドカップ開幕ですから、代表チームの準

備期間はないに等しい。

日程の変更はカタールだから起こったのだと思っている人が多いかもしれません。しかし東京の最高気温をみてみましょう。2002 年のワールドカップは 5 月 31 日から 6 月 30 日です。2018 年大会もほぼ同じで 6 月 14 日から 7 月 18 日にワールドカップをやりました。すると 32 日間のうち、最高気温 35 度以上が 10 日ありました。原則的に運動中止か厳重警戒とされる状況です。勿論ナイターがサッカーにはありますが、原則中止が 31%。31 度以上の厳重警戒が 22%。この 2 つで半分以上です。



ヨーロッパでも似たよう状況で、めちゃくちゃ暑かったです。スペインでは暑くて山火事が起きました。24 度未満で注意しなくていいのは開幕戦と翌日だけ。開幕戦はめちゃくちゃ寒かったですね。

もしかするとカタールだけでなく、日本であってもヨーロッパであっても、6 月から 7 月にかけての開催はもうないかもしれないと危惧しています。ワールドカップは今後も秋開催になる可能性は十分あると思います。

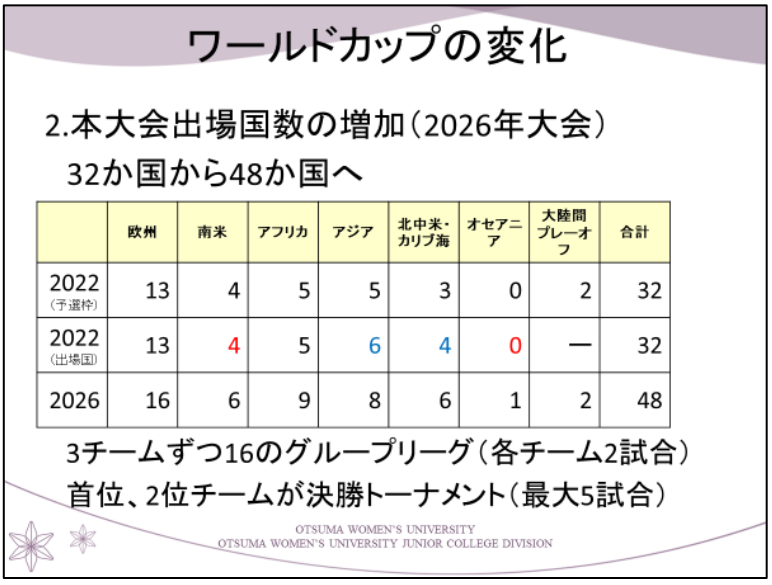
シーズン中の開催になった時に、競技面や興行面でどういう影響が出るのでしょう。私は、シーズン終了後にワールドカップを開催するのは興行面ではいいのではないかなと思います。各国でリーグ戦、カップ戦をやって、よし、次は代表戦だ、という感じで。

今までは、頑張れリバプール、頑張れレアルってやっていたのを、今度は頑張れイングランド、頑張れスペイン、そういう形で切り替えていけばよいのではないかと思います。

あとは競技面ですね。シーズン中に行うのがいいのかシーズン後がいいのか。その部分の影響はどういうものか。今回のカタールワールドカップで答えが出るのではないかと思います。

２．出場枠の増加

2 つ目は本大会出場国の増加ということです。次の 2026 年大会では、本大会出場は 48 チームに増えます。2022 年大会の予選枠が 2026 年はどうなるのか。ヨーロッパは 55 チームあり、いまは 13 チームしか出られませんが、3 チーム増えて 16 チームになります。南米はほぼ 5 割増し。アジア、アフリカも増えます。そして本大会では 3 チームずつ 16 グループに分かれて総当たり。各チーム 2 試合ですね。首位と 2 位が 2 次ラウンドに進んで最大 5 試合。マックスで 7 試合という大会になります。



	欧州	南米	アフリカ	アジア	北中米・カリブ海	オセアニア	大陸間プレーオフ	合計
2022（予選枠）	13	4	5	5	3	0	2	32
2022（出場国）	13	4	5	6	4	0	—	32
2026	16	6	9	8	6	1	2	48

どんないいことがあるのかというと、より多くの国が本大会に出場できます。1998 年に初めてワールドカップに日本代表が出た、あの高揚感がたくさんの国でみられます。

そして財政的に貢献します。本大会の

試合数が 64 から 80 に増加します。1 チームあたりの働き方は、最大 7 のまま、本大会の試合数を 80 に増やすことできるので財政貢献が大きい。

逆によく言われているのは、大会の質の低下と予選ビジネスの縮退です。いままでは「絶対に負けられない戦いがある」と言ってアジア予選をやっていたのですが、アジアで 8 チーム、実際は 8.5 チームですが、8 チームも行けるのなら間違っても出られますよね。そういうことで、予選ビジネスの縮退が起きる。

オリンピックもそうですが、予選ビジネスはサッカーの場合バカになりません。ちょっと話がオリンピックに戻りますが、オリンピックの場合、予選の時は看板が出せるんです。本大会は看板出せません。これは大きいですよね。

質の低下とはどういうことかというと、第 1 シードは世界ランキング 1 位から 16 位のチームが出たとして、そのチームにとってはランキング 17 位から 32 位、第 3 シードにランキング 33 位から 48 位。2 試合戦って最下位にならなければ 2 次ラウンドに行ける。実際にはもっとランキングの低いチームも出てくるわけで、ランキングとしては差が出るわけですね。100 位以下のチームも出てくるでしょう。そういうことなので、先ほどお話をしたネーションズリーグで、そういう組み合わせない方が良いよねっていうような試合が、本大会でも行われるんではないか。

先ほど UEFA ネーションズリーグ発足のころの話をしましたが、ヨーロッパ以外の国にとって、ワールドカップは欧州のチームと対戦できる機会なんです。ところがグループリーグ 2 試合中 1 試合は、たぶん、ヨーロッパのチームとできるでしょう。48 チーム中 16 チームがヨーロッパのチームですから、各グループ 1 チームはヨーロッパのチームが入るので、1 試合はできます。ところが決勝トーナメントに行っても、ヨーロッパのチームがいくら頑張っても 16 チームしか進出できません。1998 年に本大会が 32 チームになってからを見てると、いわゆる 16 強、ノックアウトステージに残った 16 チームのうち、多くても 10 チームしかヨーロッパのチームは残っていません。2010 年は 5 チームだけ。2014 年は 6 チーム。まあこの 2 大会はヨーロッパ以外でやった大会です。ホームアンドアウェーって恐ろしいなと思います。ヨーロッパ以外の国でやると、ヨーロッパの成績が悪い。

ということで、本大会に行っても強いチームと当たることはなかなかできません。ですから、今回スペイン、ドイツとワールドカップで対戦できるなんて、よほど日本が強くならないと起こらない。

出場国が増えると、お祭りとしてはいいと思います。ビジネスとして成功したとしても、やはりスポーツの世界選手権としたらどうなのかと疑問を感じる人は少なくないのではないでしょうか。

代表チームの大会としては、世界大会以外に大陸別選手権が存在しています。これは我々日本人、アジア人は気づいてないことですが、ヨーロッパでは 4 年に 3 回、大陸選手権のチャンピオンが生まれるんです。4 年に 1 回の欧州選手権と、2 年に 1 回のネーションズリーグがあります。ということで、4 年のうち 3 回はヨーロッパチャンピオンが生まれてるんです。

南米選手権は 4 年に 1 回となっていますが、最近はよくわからなくて、2 年に 1 回か 3 年に 1 回、記念大会をやっています。アフリカでは、アフリカネーションズカップが 2 年に 1 回。これはワールドカップより盛り上がります。アジアではアジアカップを 4 年に 1 回やっています。東アジア選手権や中東選手権はやっていますが、国別対抗のオールアジアの大会は 4 年に 1 回しかありません。

私なりの結論と言うか意見です。もともとヨーロッパの代表戦は、定期戦がベースだったんです。例えばオランダはドイツと試合をしていました。スペインはポルトガルと、フランスはベルギーと、毎年試合をしてました。イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドはホームインターナショナルという形で、4 チームで毎年やっていましたよね。

ところが、オリンピックやワールドカップや欧州選手権という選手権が出現して、ナショナリズム発揚の場になった。そしてナショナリズムをベースとしたコマーシャリズムが誕生したのが、過去 50 年間のサッカー界だったと思います。

冒頭お見せした今回のオリンピックにも、スキャンダルがいろいろありました。私はコマーシャリズムは否定しません。むしろあれだけのアスリートが来て、お金が動かないのはおかしいです。その時には、オリンピックにしろワールドカップにしろを欧州選手権にしろ、国別対抗という形でナショナリズムがベースとなってくるでしょう。

こういうものを考えていくならば、ナショナリズム以外をベースにしたコマーシャリズムの世界に、サッカーは変わっていくのではないかと思います。これは、先ほどの皆さんのご意見のように、当たり前なんですね。クラブチームで毎週試合やって、毎週 1 回か 2 回試合をやり、それで巨額の富を集め、全世界 7 億人という人が DAZN を見ている。そういうところに注目が集まっているのが当たり前の世界です。日常としての国内リーグやチャンピオンリーグに重点を移していく、いや、移っていると思います。コマーシャリズムは移っていく。つまり、先ほど言ったワールドカップや欧州選手権やオリンピックというものから、そちらに移っていくのではないかと思います。

今後、欧州選手権やネーションズリーグのような代表の試合がどうなるかというと、ナショナリズム発揚の場というよりむしろ、同志の対抗戦とて生き残る。例えば東京六大学野球とか大相撲と同じです。八百長やってる、真剣にやってる、というのではなく、仲間内で真剣にやる大会です。あるいはアメリカのアイビーリーグなどのスポーツの対抗戦ですね。ああいう形として生き残っていくのではないかというのが私なりの結論です。

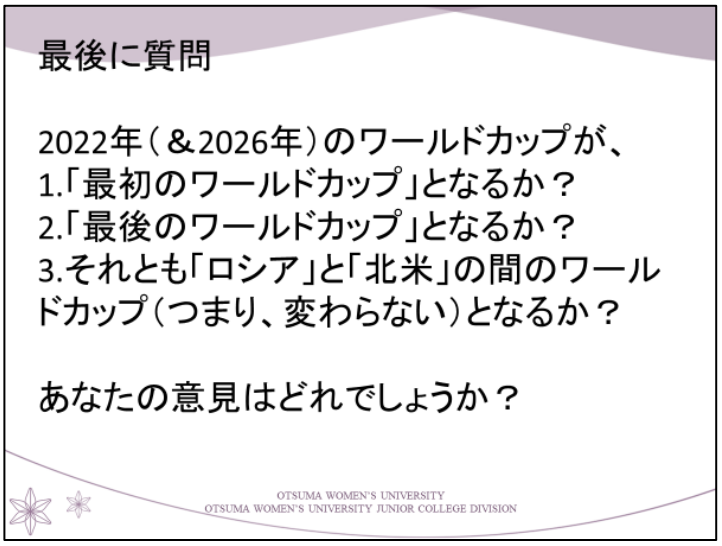
ナショナリズムをベースとしたコマーシャリズムを、ワールドカップやオリンピックは、失っていくのではないかと思いいます。

オリンピックの場合はオリンピズムという思想があります。オリンピックは、中塚先生もお話しされていますけど、クーベルタンの考えていた思想があります。

ではワールドカップには何があるのでしょうか。

それが最初の、今回の案内文にも書いた通り、今回の、次の、あるいはその次のワールドカップが、もしかしたら最初のワールドカップ、あるいは最後のワールドカップになるのではないか。それとも、私はこれを「ベーリング海ワールドカップ」と呼んでいますが、ベーリング海、ロシアと北米の間のワールドカップ。つまり変わらない。

ちょうど 9 時ですね、ご静聴ありがとうございました。皆さんの意見を伺ってみたいと思います。



＜ディスカッション②＞

中塚：どうもありがとうございました。冒頭の壮大なテーマにはじまり、最後も壮大な問題提起で終えていただけたかなと思います。確かに今回のカタール大会はいろんな意味で異色というか、妙な大会だと思っていますが、「妙な」の中身を整理してみると、いま井上さんが言ってくれたような二つの視点、日程の問題と出場国の問題に行きつくわけです。そしてそれが今回きりのことなのか、それとももっと本質的な動きのなかで、世界のスポーツシーンの変化の一部ととらえられるのか。

残り 30 分ほどですが、フリーでディスカッションしましょう。井上さんからは「あなたの意見はどれでしょう？」という問題提起も出されています。言いっぱなしで構いません。自由に意見交換できればと思います。では田中俊也さん。簡単な自己紹介からお願いします。

１．気になる中国の動向

田中：普段は医者をやってます。去年の夏のオリンピックはもう正気の沙汰ではないと思いました。見る側も大変だし、競技する方も地獄のような大会で、オリンピックはこれから冬にやるしかないと個人的には思っています。

今日いろいろなお話がありましたが、一つだけ。僕は常々疑問に思っていたというか、ロシア大会でも思ったのですが、スポンサー絡みだとか、視聴者、あと各国のクラブのスポンサーに、中国というキーワードが今回抜けていたような気がします。中国にとって、オリンピック、ワールドカップはどういうものになるのか。例えば FIFA は、これからはヨーロッパの大会はヨーロッパでやってもらい、ワールドカップは中国中心にやってほしいというような極端な言い方をしています。そういうやり方にもしなるとするならば、例えば中国にとってよい季節に開催するとか、中国本土でやるとか、今後も中国のスポンサーを離さないように先導していくのか。それとも逆に、今回のロシアとか、要するに共産圏とは距離を置いて、自由主義社会の中でサッカーを謳歌しようと思うならば、中国を切り捨てるような方に向かうのでしょうか。オリンピックもそうですが、FIFA は一体どのように考えているのかには非常に興味があります。

開催時期を変えたことや参加国が増えることは、どう見ても中国を参加させる為の布石であり、中国本土で競技をやることの布石としか考えられません。この考えが、途中で路線変更するのか、そのまま突っ切るのか。北米大会の後がよくわからないのですが…。中国はワールドカップに関して、スポンサーを降りるとかもっと増やすとか、そういう動きはあるのでしょうか。

おそらくいま、FIFA 公式スポンサーのうち 7 割から 8 割ぐらいが中国系ですよね。日本の企業はどんどん減ってきています。

井上：むしろクラブやリーグの方が中国を向いてますね。我々日本人にとってはすごく調子が良くできていて、土日のこの時間は、ライブでヨーロッパのサッカーが見られますよね。あれは中国のおかげなんです。中国のゴールデンタイムに合わせて、ヨーロッパの真っ昼間にサッカーを毎週 2 試合やる。これは我々日本人にとってはありがたい話です。そういう試合だと、看板も中国語。選手の名前も中国語で書く。そういうことでやっています。

お金の動きとしては、明らかに各クラブの方に動くのが大きいです。それと同じ動きを FIFA や IOC が考えるのは当然だと思います。

中塚：手を上げてくださっている張さん、北川さんから、中国関連の補足がもしあればお願いします。

張　：挙手したのはそういう発言ではなかったのですが、でも中国っていうと、何か喋んなきゃいけないと思うので。習近平が、中国のサッカーどうにかするよって何年か前にドーンと打ち上げたのですが、ボロボロになったというぐらいの認識しかなく、最新の状況はつかんでいません。いまの田中さんのご指摘は、本当にいいポイントだと思いますけど材料もないです。すみません。

中塚：北川さん、どうですか？

北川：北米大会の次の 2030 年は、スペインとポルトガルの共催が結構濃厚な状況になっています。先ほどの文脈で言えば、出場国が増えたということが一つあります。2002 年の時は、これまでなかった日韓共催を打ち出しました。IOC も一緒ですけど、48 チームにもなると、単独の国でできるところは少なくなります。なので、いくつかの国、地域、周辺国を含んだ形でイベントに手を挙げさせていこうという流れに変わっていると思います。

中国に関して言えば、先ほど張さんが言われたように、習近平さんが 2030 年のワールドカップの開催を目指すと言っていました。それに向けて国内スーパーリーグをすごく強化し、海外から有名選手を入れたけど、その後ぽしゃった印象です。代表チームも、ブラジル人を帰化させたけどうまくいってないと判断しています。すみません、こんな感じです。

中塚：ありがとうございます。春日さんもこの関連のコメントですね。

春日：はい、去年まで中国・上海にいた人間として、ちょっとコメントさせていただきます。
私の感覚では、中国のサッカーは、先ほど井上先生が言われた通り、中国人が見やすい時間帯にゲームがあるところは非常に的を得ていると感じています。中国人自体は、自国のチームに対して何の思い入れもありません。と言いますのも、他に強いスポーツがあるからです。卓球はもちろん、バスケットボールも NBA プレイヤーがいます。ちょうど習近平が力を入れるタイミングで、ウー・レイという選手がエスパニョールに移籍したのが非常に話題になりましたが、活躍できずに帰っています。そういった意味で中国人は、自分の国が一番にならないスポーツには興味がないのだろうと思います。その代わり、サッカーを本当にコアに好きな人たちは、プレミアリーグを見るというところでしょうか。
日本もおそらく最初はそういう状況から J リーグが始まり、世界的なスターが来たというのがあったと思いますが、中国スーパーリーグでそれをやった時にうまくいきませんでした。生活に適応できない選手が多かったという記事を目にすることはありました。私も実際住んでいて、外国人からするとかなりストレスを感じることがありました。日本だと比較的ストレスなく住めた選手がいました。リトバルスキーには日本人の奥さんがいるみたいな。そういったところの様子も含め、数年のうちにアジアカップで優勝するぐらいのことがないと、中国人は自国のチームを応援する流れにはならなかったのかなというのが、住んでいた経験から感じるところです。

中塚：ありがとうございます。田中さんからの問いかけ、投げかけは以上でよろしいですか？

田中：そうですね。まあ IOC も FIFA も、ラテン系の人たちが牛耳っていると思いますが、そういう人たちが中華思想というものに対してどういう反応を今後見せていくのか。もうスポンサーを降りてもらうようにしているのか、それとも取り込もうとするのか、非常に興味があるところです。その試金石がカタール大会で、結果がその次の北米大会で如実に現れるのかなと個人的に思っています。

中塚：ありがとうございます。では張さん、もともと用意されていたご質問、あるいはご意見をお願いします。

２．レベル別リーグとブロック内での対抗戦

張　：中国の話にはちょっと刺激を受けましたので、追っかけて調べたいなと思います。わかったらご報告できればと思います。後半の井上先生の話は当に面白く、素晴らしいと思いながら聞いてました。
僕はもともとクラブワールドカップが本当のワールドカップになればいいなと思っていました。ですから井上さんの質問への答えは 2 番「最後のワールドカップとなる」です。けどそれは「なればいいな」であり、なるかと言われると、そんな簡単にはならないのではとも思います。
一つ感想があります。ネーションズリーグでレベルを合わせて、強いとこは強いとこ同士でやり、弱いとこは弱いとこ同士でやってそれぞれ試合機会を確保する。これは我々が少年サッカーでドイツの仕組みを参考にしたりして、最近多くの人が理想として主張をし始めている、上手い子は上手い子のチームに入り、弱い子、上手くない子はチームを自由に移籍して、弱いチーム同士でレベル毎にリーグ戦をやるというのと同じ発想のように思います。ヨーロッパの人たちは結構、レベル（階層・階級）に分け

て、みんなでやる方がしっくりくるというパラダイムを持っているのかなということを感じながら聞いておりました。日本ではクラス分けは差別や挑戦するチャンスを奪うことになるみたいな議論が表に出てきがちであり、発想の違いが子供の世界からトップまでつながっているというのをここでも感じました。

井上：ありがとうございます。たぶんオープンなところがサッカーのいいところでもあり悪いところでもあるんですよね。だから日本の高校野球と同じように、浦和学院高校と浦和高校が県大会 1 回戦で当たりますが、それと同じ世界です。それがサッカー的な良さだったかもしれませんが、いまではレベル分けをして大会をやる。ほかのスポーツには結構あるのになぜかサッカーはなかった。
　その点でいくと、サウシアラビアとか韓国とか、そういうチームと切磋琢磨することの方が、日本人もハッピーなのかなと思います。

張　：アジアもそうなった方が良いということですね。

井上：そうです。あともう一つ、クラブワールドカップが本当のワールドカップになるという件ですが、私はよく箱根駅伝の話をするんです。箱根駅伝は、関東大学リーグです。でも日本人が一番注目するわけじゃないですか。ということで、やはりそういうブロック化されたものの中に、今後はビジネスの中心がくるんではないかなって感じがします。

北川：僕もやはりクラブワールドカップ、クラブ中心の戦いが今後のトレンドになるのではと思います。いまのクラブワールドカップのままでの実現はしんどいでしょうけど。
　そういう意味では、去年バルセロナやレアルやユベントスなどビッグクラブが集まってやろうとしていた「スーパーリーグ構想」が、もしかしたら主流になるかもしれません。そこに参加するビッグクラブがどこまで広がるのかという問題はありますが、井上先生がおっしゃったナショナリズム以外の部分というのはそうなのかなと思います。

３．パリ・サンジェルマンのジャパンツアーからみえるもの

井上：実は中塚先生との事前打ち合わせでこの話をしてくれと言われていたのが、パリ・サンジェルマンの日本遠征、ジャパンツアーの話です。私も関わったんですが、あれはすごく画期的でした。
　どういうことかというと、先ほどから皆さん中国の話をしていますが、ヨーロッパのビッグクラブはみんな、夏休みになると中国もしくは北米に試合をしに行くんです。パリ・サンジェルマンやレアル・マドリッドって、サッカーチームではないです。アパレルメーカーです。試合をやれば、山のように売れるわけです。いくら頑張っても 8 万人しかお客さんは集まりませんが、服は作れば売れるわけです。だからアパレルメーカーなんですね。だから中国や北米に行く。確かレアル・マドリッドのユニフォームが世界で一番売れているのはマドリッドではなくて上海だという話を聞いたことがあります。きっとそうなんでしょう。それで中国に行くんです。
　中国に試合に行くときは対戦相手を連れて行かないといけません。ユベントス単独ではだめで、ユベントスとレアル・マドリッドがついてきたんですね。ところが日本に来た時は、富士通と試合をやったじゃないですか。川崎フロンターレですね。あと三菱、浦和レッズとガンバ大阪。1 つのチームだけで滞日するツアーが、日本だと成立します。中国やアメリカではこうはいきません。これはサッカーのレベルが上がってきた日本と韓国にとって、決定的なツールになるかもしれません。日本のサッカーにとって新たな、ピン芸人が夏休みになると相方連れてこなくていいモデルができたのかなと思います。

中塚：しかも我々は韓国と仲良くやれば、ピン芸人が韓国に来た時に、海を渡って日本に来てもらえる

わけでともにハッピーですよね。ブラジルが日本と韓国両方で試合やったのと同じ発想ですよね。

田中：ハリス副大統領が安倍さんの国葬に来た後、韓国に行ったのとまったく同じ発想ですね。韓国は得しましたよね。葬式のあとはまっすぐ帰るのが普通です。なんで横道するんだって思いますけど。

４．ナショナリズム、コマーシャリズムとクローバル化－ワールドカップのこれから

中塚：関連して私からも思ったことを少し話します。こういった議論を 20 年ぐらい前にもしたような気がします。1995 年のボスマン判決以降、EU 圏内では選手が国籍に縛られることなく自由に移籍できるようになり、地域に根ざしたクラブ同士の対抗戦から様子が変わってきました。そのころ、国別対抗戦であるワールドカップはどうなるんだという議論もありました。ドイツ人やフランス人の定義が少しずつ変化し、代表チームのメンバーの出自も多様化してきます。代表チームとは何なのか、帰属意識をどこに求めるのかという指摘が、宇都宮徹壱さんあたりから投げかけられました。そもそも「国」「国民」って一体何だろうということですね。

一方で「日常」って何だろうという論点もあります。スポーツが日常生活に深く根差したものだとするなら、チャリンコで行ける生活圏の範囲で日常のスポーツ活動をやりたい。すると日常の大切な要素としてのクラブは、近くの地域の人たちと作っていくのが原点にあるべきです。そこにグローバル化とコマーシャリズムが乗っかってきます。ビッグクラブのトップチームはまるで世界選抜です。アンダーカテゴリーのところも、タレントを集めて寮生活。このようなビッグクラブと、ローカルな中小クラブの格差がどんどん拡大し、共存できるのかという問題がある。結論も何もありませんが、このような話は 20 年前にしていたなあというのを思い出しました。25 年ぐらい前ですかね。

張　：中塚先生が言われた 20 年前の話に関連して、日本代表はすごく変わりましたよね。日本代表において、いわゆる伝統的な日本人ではない出自を持つ代表選手がぞろぞろいるじゃないですか。アジアでそういう現象が起きているのは日本だけだと思うんです。他のアジアの国でも 1～2 人は散見することがあるし、中国もブラジル人を入れたりしましたが、終わったらまたブラジル国籍に戻ってますから、本当に中国人として戦ったとは言えないと思います。これに対して日本の代表になった方々は本当に日本人という意識を持って日本の代表になっていると思いますし、そのように受け入れていると思います。ラグビー代表もそうだと思いますけど、こういう民族多様性のある代表チームが実現している日本社会って結構イケてるじゃん、と思ったりもしています。サッカーが、日本の多様性を広げる方向で機能してくれているとしたら嬉しいなと、日々感じています。だから 20 年前から日本はほんとうに変わったなと思います。

中塚：ありがとうございます。鈴木崇正さんの画面が ON になっているので、そろそろ発言しようとされているのではないでしょうか。同じ昭和 36 年組の鈴木崇正さんに振っていいですか。

鈴木：井上先生、ありがとうございました。いまご紹介ありましたように、井上俊也、中塚義実と私は 1961 年生まれで、昔はサロンの黄金世代と勝手に呼んでましたけど。

世代代表というわけではありませんし、先輩の方々や若い方々との違いを強調したいわけではないのですが、我々が「ワールドカップ」というこの 7 文字に持つ共通感覚を、僕は井上さんや中塚さんと酒を飲んだりして感じるんです。それは 13 歳の時に 1974 年の西ドイツ大会があったという共通体験です。いまとは雲泥の差です。当時は、ワールドカップという文字をメディアで探すのが、ものすごく難しい時代でした。信じられないほど露出がなかったし、知られていなかった。でも我々のようなサッカー好きの子供たちは、オリンピックと同等以上の価値がある、なぜそうなのかというようなことを、岡野俊一郎さんや牛木素吉郎さんの言質から学んでいました。私の家はオリンピック家庭だったので、オリン

ピックよりすごい大会があるということを、中学 1 年生の時に家族に向かって自慢気に語った記憶があります。そういう世代がこうやって知見を集約し、今日のような話をいただけるっていうのが、とても感慨深いものがあります。こういうふうに切り取っていくと面白いなと思ってお話を聞いていました。

今日のお話から日常、非日常の境目がなくなってきていると感じます。大衆に支えられた文化であるサッカーの世界大会が、国籍を元にしたナショナルチームで編成される。つまりそれは、日常的に行われているリーグ戦などとは違う、時々行われるもの、「たまにやってくるもの」だったと思います。リーグ戦で地元のチームを応援する文化と、時々編成されるより大きな代表チームという枠組みで自国を応援する、そういう日常と非日常が棲み分けられていたのが、いつの間にか、いまやナショナルチームのレベルでごっちゃになってきたというのが、今日のお話からわかりました。

ヨーロッパで普通にサッカーを楽しんできた人たちの感覚が、井上先生ご指摘のように、いまどうなっているのかということですね。2020 年大会のユーロは、2021 年に開かれましたけど、分散大会でした。ワールドカップが共催になり、次は北中米大会です。カナダ、アメリカ、メキシコという大きなエリアで行われる大会になる。井上さんの質問に僕なりに答えるなら「最後のワールドカップ」になるのではと思います。そう思わざるを得ないです。

ヨーロッパを中心に、ナショナルチームの試合が頻繁に、日常的にひっきりなしに、ワールドカップだ、ユーロだ、ネーションズリーグだと行われていることを、一般の人たちがどのように文化として消化していくんだろうと、在欧経験のある方にも聞いてみたくなりました。

５．おわりに

中塚：ありがとうございます。そろそろ予定していた 9 時半が近づいてきました。最後に井上さんからコメントをいただき、写真を 1 枚とって中締めにしたいと思います。では井上さん、お願いします。

井上：まずは、私の拙い話を 2 時間近くお付き合いいただき、本当に感謝しています。

いまの鈴木さんの話にならえば、私自身のワールドカップの印象は、まさに西ドイツ大会のヨハン・クライフですね。西ドイツ大会は、日本で 1 試合しかテレビ中継しませんでした。決勝戦のみです。その次のアルゼンチン大会では、ヨハン・クライフは予選だけ出て本大会に出ませんでした。これは結構有名な話で、ひと月も自分の家を留守にしたくない、そんな理由で本大会に出なかったということです。こういう人生ってあるんだなと思いました。まさにそういう価値観は、いまのワールドカップ、代表チームでは、もしかしたら当たり前になりつつあるかなと感じます。だから私も、もしかすると最後のワールドカップになるのではないかと思います。ただ私は、ワールドカップという世界大会がなくなるかもしれないけど、地域ごとに代表が試合する、あるいは世界大会という名のワールドワイドで選手がヨーロッパに集まってチャンピオンズリーグをする。まあこういう形でサッカーの頂点が保たれるのではないかと思います。

非常にたくさんの方からいろんなご意見をいただき、たいへんうれしく感じています。サロン 2002 という前世紀にできたこの場でこういう話ができて大変嬉しかったです。本日はどうもありがとうございました。

中塚：ありがとうございました。今後の予告をさせてください。次回は 10 月 19 日の限定サロンです。限定サロンというのは、サロンファミリーのみが参加できる、濃い内輪の会議です。参加したい人はこの機会に入会してください。その次の 11 月は公開シンポジウムを、対面とオンラインを融合させた形で、長野県千曲市の畳の座敷に 30 人ぐらい集まり、オンラインで全国と繋いでシンポジウムの計画をしています。ホームページに案内が載ってますのでぜひご覧ください。

本日はありがとうございました。残れる方は、このままオンライン懇親会を楽しみましょう。

続きはオンライン懇親会